

目次

第1章 ベクトル

① 平面上のベクトル

4

- ポイント 1 ベクトルとその相等
- ポイント 2 ベクトルの加法・減法
- ポイント 3 ベクトルの演算
- ポイント 4 ベクトルの平行・ベクトルの分解
- ポイント 5 ベクトルの成分表示
- ポイント 6 成分表示と演算
- ポイント 7 点の座標とベクトルの成分
- ポイント 8 ベクトルの内積
- ポイント 9 内積と成分
- ポイント 10 平行条件, 垂直条件
- ポイント 11 内積の性質
- ポイント 12 最大・最小

② 平面上のベクトルと図形

20

- ポイント 1 位置ベクトル
- ポイント 2 重心の位置ベクトル
- ポイント 3 一直線上の3点
- ポイント 4 交点の位置ベクトル
- ポイント 5 ベクトルの等式
- ポイント 6 角の二等分線とベクトル
- ポイント 7 三角形の面積
- ポイント 8 図形の性質への応用
- ポイント 9 外心と内積
- ポイント 10 内積と内分点
- ポイント 11 直線と方向ベクトル
- ポイント 12 平面上の点の存在範囲
- ポイント 13 直線と法線ベクトル
- ポイント 14 点と直線との距離
- ポイント 15 円のベクトル方程式
- ポイント 16 ベクトル方程式と軌跡
- ポイント 17 座標と内積

③ 空間のベクトル

44

- ポイント 1 空間における平面と直線
- ポイント 2 空間座標
- ポイント 3 2点間の距離
- ポイント 4 空間のベクトル
- ポイント 5 空間のベクトルの成分表示
- ポイント 6 点の座標とベクトルの成分
- ポイント 7 空間ベクトルの内積
- ポイント 8 内積の利用

④ ベクトルと空間図形

56

- ポイント 1 位置ベクトル
- ポイント 2 重心の位置ベクトル
- ポイント 3 一直線上の3点
- ポイント 4 同じ平面上にある点
- ポイント 5 直線と平面の交点
- ポイント 6 空間図形と内積(1)
- ポイント 7 空間図形と内積(2)
- ポイント 8 線分の内分点・外分点の座標
- ポイント 9 空間座標と立体
- ポイント 10 直線の方程式
- ポイント 11 平面の方程式
- ポイント 12 球面の方程式

⑤ ベクトルのまとめ

76

CONTENTS



第2章 2次曲線

⑥ 2次曲線 90

- ポイント 1 放物線の方程式
- ポイント 2 楕円の方程式
- ポイント 3 円と楕円
- ポイント 4 双曲線の方程式
- ポイント 5 曲線の平行移動
- ポイント 6 2次方程式が表す図形
- ポイント 7 離心率と準線
- ポイント 8 曲線と直線の共有点
- ポイント 9 2次曲線の弦
- ポイント 10 接線の方程式
- ポイント 11 曲線と曲線の共有点
- ポイント 12 2次曲線と軌跡
- ポイント 13 2次曲線と領域

⑦ 媒介変数表示, 極座標と極方程式 108

- ポイント 1 媒介変数表示
- ポイント 2 一般角 θ を用いた媒介変数表示
- ポイント 3 媒介変数表示の曲線の平行移動
- ポイント 4 媒介変数表示の利用
- ポイント 5 極座標
- ポイント 6 極方程式
- ポイント 7 極方程式と直角座標で表された方程式
- ポイント 8 2次曲線の極方程式
- ポイント 9 極方程式と軌跡

⑧ 2次曲線のまとめ 120

★ いろいろな曲線 128

第3章 複素数平面

⑨ 複素数平面 130

- ポイント 1 複素数平面
- ポイント 2 複素数の絶対値
- ポイント 3 複素数の実数倍
- ポイント 4 複素数の和と差, 2点間の距離
- ポイント 5 複素数の極形式
- ポイント 6 複素数の積と商
- ポイント 7 複素数の積・商の図形的な意味
- ポイント 8 ド・モアブルの定理
- ポイント 9 1の n 乗根
- ポイント 10 複素数の n 乗根

⑩ 平面図形と複素数 142

- ポイント 1 内分点・外分点
- ポイント 2 点 a を中心とする回転
- ポイント 3 複素数と角
- ポイント 4 3点の位置関係
- ポイント 5 方程式の表す図形
- ポイント 6 アポロニウスの円
- ポイント 7 動点の描く図形

⑪ 複素数平面のまとめ 152

● 公式集 158

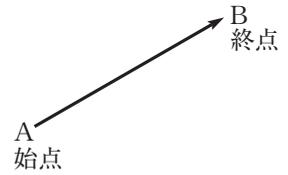
Point 1 ベクトルとその相等

● **有向線分** …… 平面上での点の移動は、向きをつけた線分で表すことができる。

このように、向きをつけた線分を**有向線分**という。

有向線分 AB では、A をその**始点**、B をその**終点**といい、その向きは A から B へ向かう向きとする。

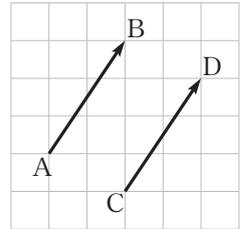
また、線分 AB の長さを、有向線分 AB の**大きさ**という。



● **ベクトル** …… 有向線分は、位置と、向きおよび大きさで定まるが、その位置を考

えずに、向きと大きさだけに着目したものを、**ベクトル**という。

ベクトルは、向きと大きさをもつ量である。



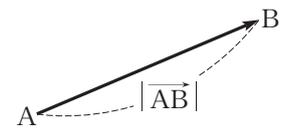
例 右の図で、有向線分 AB と有向線分 CD は、ベクトルとしては、同じものを表す。

● **ベクトルの表し方** …… 有向線分 AB で表されるベクトルを \overrightarrow{AB} と書く。

また、 \vec{a} 、 \vec{b} のように、1つの文字に矢印をつけて表すこともある。

● **ベクトルの大きさ** …… 有向線分 AB の長さをベクトル \overrightarrow{AB} の大きさといい、

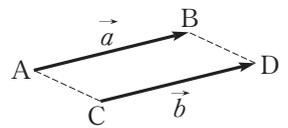
$|\overrightarrow{AB}|$ で表す。



● **単位ベクトル** …… 大きさが1であるベクトルを**単位ベクトル**という。

● **ベクトルの相等** …… \vec{a} と \vec{b} の向きが同じで大きさが等しいとき、2つのベクトル \vec{a} 、 \vec{b} は**等しい**といい、 $\vec{a} = \vec{b}$ と書く。

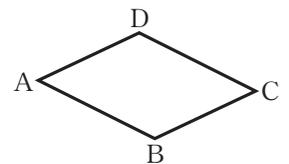
$\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{CD}$ のとき、有向線分 AB を平行移動して有向線分 CD に重ね合わせることができる。



確認問題 1 次の問いに答えよ。

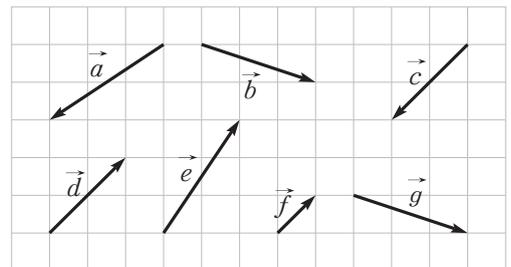
□(1) 右の図の平行四辺形 ABCD について、互いに等しいベクトルの記号の組をいえ。

- ㊦ \overrightarrow{AB} ㊧ \overrightarrow{AC} ㊨ \overrightarrow{BD} ㊩ \overrightarrow{DC}



□(2) 右の図に示されたベクトルについて、次のようなベクトルの組をすべてあげよ。

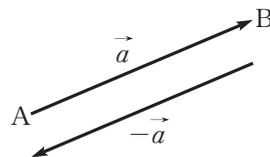
- ① 大きさが等しいベクトル
 □② 同じ向きのベクトル
 □③ 等しいベクトル



Point 2 ベクトルの加法・減法

● **零ベクトル**……始点と終点一致したベクトル \overrightarrow{AA} を**零ベクトル**といい、 $\vec{0}$ で表す。
大きさは0で、向きは考えない。

● **逆ベクトル**……ベクトル \vec{a} と大きさが等しく、向きが反対のベクトルを**逆ベクトル**といい、 $-\vec{a}$ で表す。
 $\vec{a} = \overrightarrow{AB}$ のとき、 $-\vec{a} = \overrightarrow{BA}$ であるから、 $\overrightarrow{BA} = -\overrightarrow{AB}$



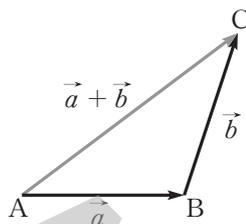
● **ベクトルの加法**…… $\vec{a} = \overrightarrow{AB}$, $\vec{b} = \overrightarrow{BC}$ とするとき、
 $\vec{a} + \vec{b} = \overrightarrow{AC}$

$\vec{a} + \vec{b}$ は、次のように図示できる。

① 三角形をかく。

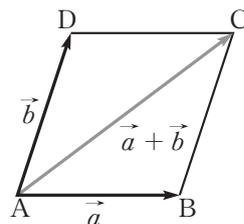
\vec{a} の終点に \vec{b} の始点を一致させる。

$$\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BC} = \overrightarrow{AC}$$



② 平行四辺形をかく。

$$\overrightarrow{AD} = \overrightarrow{BC} \text{ より, } \overrightarrow{AB} + \overrightarrow{AD} = \overrightarrow{AC}$$



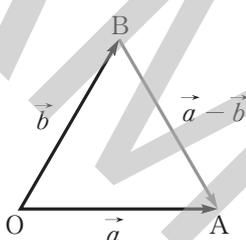
● **ベクトルの減法**…… $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$, $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$ とするとき、
 $\vec{a} - \vec{b} = \overrightarrow{BA}$

$\vec{a} - \vec{b}$ は、次のように図示できる。

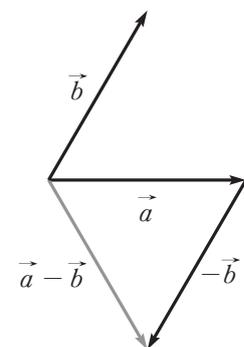
① $\vec{b} + (\vec{a} - \vec{b}) = \vec{a}$

\vec{a} と \vec{b} の始点を一致させる。

$$\overrightarrow{OA} - \overrightarrow{OB} = \overrightarrow{BA}$$



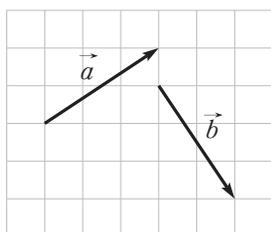
② $\vec{a} - \vec{b} = \vec{a} + (-\vec{b})$
逆ベクトルを利用する。



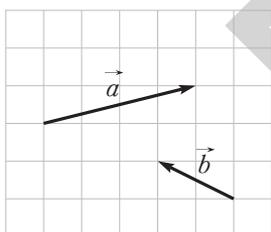
確認問題 2 次の問いに答えよ。

□(1) 次のベクトル \vec{a} , \vec{b} について、 $\vec{a} + \vec{b}$ をそれぞれ図示せよ。

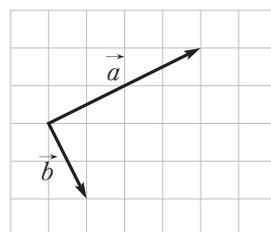
□①



□②



□③



□(2) 4点 A, B, C, D について、次のベクトルの和や差を1つのベクトルで表せ。

□① $\overrightarrow{BC} + \overrightarrow{CD}$

□② $\overrightarrow{AC} - \overrightarrow{AB}$

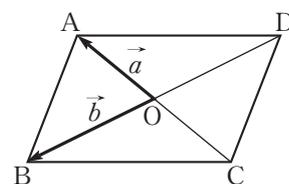
□(3) 平行四辺形 ABCD の対角線の交点を O とし、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ とする。
次のベクトルを \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ。

□① \overrightarrow{CO}

□② \overrightarrow{OD}

□③ \overrightarrow{AB}

□④ \overrightarrow{CB}

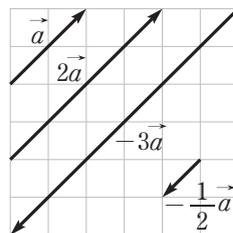


Point 3 ベクトルの演算

● ベクトルの実数倍

ベクトル \vec{a} の k 倍のベクトル $k\vec{a}$ を次のように定める。

- ① $\vec{a} \neq \vec{0}$ のとき、
- ① $k > 0$ のとき、 \vec{a} と同じ向きで、大きさは $|\vec{a}|$ の k 倍
 - ② $k < 0$ のとき、 \vec{a} と反対の向きで、大きさは $|\vec{a}|$ の $|k|$ 倍
 - ③ $k = 0$ のとき、零ベクトル
- ② $\vec{a} = \vec{0}$ のとき、
任意の実数 k に対して、 $k\vec{0} = \vec{0}$



● ベクトルの計算……多項式の計算と同じように行う。

〔加法〕

- ① 交換法則 $\vec{a} + \vec{b} = \vec{b} + \vec{a}$
- ② 結合法則 $(\vec{a} + \vec{b}) + \vec{c} = \vec{a} + (\vec{b} + \vec{c})$
- ③ $\vec{a} + \vec{0} = \vec{a}$
- ④ $\vec{a} + (-\vec{a}) = \vec{0}$

〔実数倍〕

k, l を実数とするとき、

- ① $k(l\vec{a}) = (kl)\vec{a}$
- ② $(k+l)\vec{a} = k\vec{a} + l\vec{a}$
- ③ $k(\vec{a} + \vec{b}) = k\vec{a} + k\vec{b}$

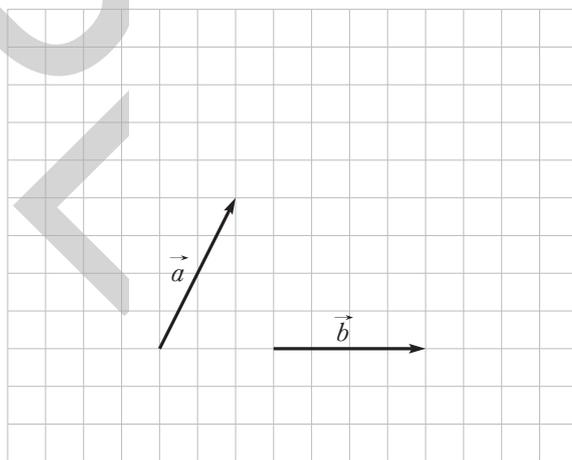
例 ① $(\vec{a} - 3\vec{b}) - 3(2\vec{a} - \vec{b}) + 5\vec{a}$
 $= \vec{a} - 3\vec{b} - 6\vec{a} + 3\vec{b} + 5\vec{a}$
 $= (1 - 6 + 5)\vec{a} + (-3 + 3)\vec{b}$
 $= \vec{0}$ ← 0 ではない

② 等式 $3(\vec{x} - 2\vec{a}) = \vec{x} - 2\vec{a}$ を満たす \vec{x} は、
 $3\vec{x} - 6\vec{a} = \vec{x} - 2\vec{a}$
 $(3 - 1)\vec{x} = (6 - 2)\vec{a}$
 $2\vec{x} = 4\vec{a}$
 $\vec{x} = 2\vec{a}$

確認問題 3 次の問いに答えよ。

- (1) 右の図のベクトル \vec{a} , \vec{b} について、次のベクトルを図示せよ。

- ① $3\vec{a}$
- ② $-\frac{1}{2}\vec{b}$
- ③ $2\vec{a} + \vec{b}$
- ④ $\frac{1}{2}\vec{a} - 2\vec{b}$



- (2) 次の式を簡単にせよ。

- ① $3\vec{a} + \vec{b} - 4\vec{a} + 3\vec{b}$
- ② $(\vec{a} - 4\vec{b}) + (3\vec{a} + 2\vec{b})$
- ③ $(2\vec{a} - 6\vec{b}) - 2(\vec{a} - 4\vec{b})$
- ④ $10\vec{a} - 4(3\vec{a} - \vec{b}) + 2(\vec{a} - 2\vec{b})$

- (3) 次の等式を満たすベクトル \vec{x} を \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ。

- ① $\vec{x} + 7\vec{a} + 3\vec{b} = 2(\vec{x} - 4\vec{b})$
- ② $3(\vec{x} - \vec{a} + 2\vec{b}) = 5(\vec{x} + \vec{b}) - 4\vec{a}$

Point 4 ベクトルの平行・ベクトルの分解

●ベクトルの平行

$\vec{0}$ でない2つのベクトル \vec{a} , \vec{b} は、向きが同じか反対のとき**平行**であるといい、 $\vec{a} \parallel \vec{b}$ と書く。

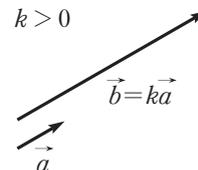
●ベクトルの平行条件

実数倍の定義により、次のことが成り立つ。

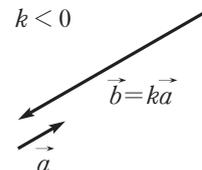
$\vec{a} \neq \vec{0}$, $\vec{b} \neq \vec{0}$ のとき、

$\vec{a} \parallel \vec{b} \iff \vec{b} = k\vec{a}$ となる実数 k がある

同じ向きに平行
 $k > 0$



反対の向きに平行
 $k < 0$



例 ① $|\vec{a}| = 1$ のとき、 \vec{a} と平行で大きさが2のベクトルは、 $2\vec{a}$ と $-2\vec{a}$

② $|\vec{b}| = 3$ のとき、 \vec{b} と平行な単位ベクトルは、 $\frac{1}{3}\vec{b}$ と $-\frac{1}{3}\vec{b}$

一般に、 $\vec{a} \neq \vec{0}$ のとき、 \vec{a} と平行な単位ベクトルは、 $\frac{\vec{a}}{|\vec{a}|}$ と $-\frac{\vec{a}}{|\vec{a}|}$ である。

●ベクトルの分解

2つのベクトル \vec{a} , \vec{b} は $\vec{0}$ でなく、また平行でないとする。このとき、任意のベクトル \vec{p} は、実数 s, t を用いて、 $\vec{p} = s\vec{a} + t\vec{b}$ の形にただ1通りに表すことができる。

〔証明〕 右の図のように、 $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$, $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$, $\vec{p} = \overrightarrow{OP}$ とする。

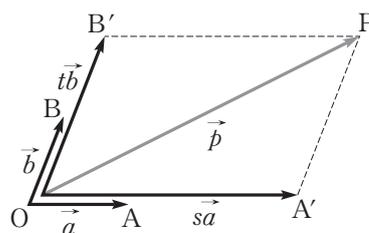
点 P を通り、直線 OB , OA に平行な直線と、直線 OA , OB との交点をそれぞれ A' , B' とすると、

$$\overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OA'} + \overrightarrow{OB'} \quad \dots \textcircled{1}$$

ここで、点 A' は直線 OA 上に、点 B' は直線 OB 上にあるから、 $\overrightarrow{OA'} = s\overrightarrow{OA}$, $\overrightarrow{OB'} = t\overrightarrow{OB}$ を満たす実数 s, t がただ1組ある。

これらを①に代入すると、 $\overrightarrow{OP} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$

すなわち、 $\vec{p} = s\vec{a} + t\vec{b}$



終

確認問題 4 次の問いに答えよ。

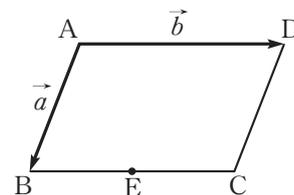
□(1) \vec{e} を単位ベクトルとするとき、 \vec{e} と平行で、大きさが5のベクトルを \vec{e} を用いて表せ。

□(2) $|\vec{a}| = 4$ のとき、 \vec{a} と平行な単位ベクトルを \vec{a} を用いて表せ。

□(3) 平行四辺形 $ABCD$ において、辺 BC の中点を E とする。 $\overrightarrow{AB} = \vec{a}$, $\overrightarrow{AD} = \vec{b}$ とするとき、次のベクトルを \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ。

□① \overrightarrow{AE}

□② \overrightarrow{ED}

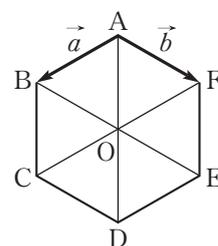


□(4) 正六角形 $ABCDEF$ において、その中心を O とする。 $\overrightarrow{AB} = \vec{a}$, $\overrightarrow{AF} = \vec{b}$ とするとき、次のベクトルを \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ。

□① \overrightarrow{FE}

□② \overrightarrow{AE}

□③ \overrightarrow{BE}



Point ⑤ ベクトルの成分表示

- **基本ベクトル**…… O を原点とする座標平面上で、 x 軸上に $E(1, 0)$ 、 y 軸上に $F(0, 1)$ をとり、 $\vec{e}_1 = \overrightarrow{OE}$ 、 $\vec{e}_2 = \overrightarrow{OF}$ とする。この単位ベクトル \vec{e}_1 、 \vec{e}_2 を **基本ベクトル** という。

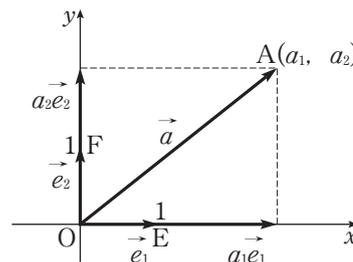
- **\vec{a} の成分表示**

ベクトル \vec{a} に対して、 $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$ である点 A の座標が (a_1, a_2) のとき、

\vec{a} は、 $\vec{a} = a_1\vec{e}_1 + a_2\vec{e}_2$ の形にただ 1 通りに表される。

この \vec{a} を、 $\vec{a} = (a_1, a_2)$ と書くとき、 a_1 、 a_2 を \vec{a} の **成分**、 a_1 を **x 成分**、

a_2 を **y 成分** という。 $\vec{a} = (a_1, a_2)$ を成分表示という。



- **\vec{a} の大きさ**…… $|\vec{a}| = OA$ であるから、

$$\vec{a} = (a_1, a_2) \text{ のとき、 } |\vec{a}| = \sqrt{a_1^2 + a_2^2}$$

- **ベクトルの相等**…… 2 つのベクトル $\vec{a} = (a_1, a_2)$ 、 $\vec{b} = (b_1, b_2)$ について、

$$\vec{a} = \vec{b} \iff a_1 = b_1, a_2 = b_2$$

- **成分によるベクトルの演算**…… 成分で表されたベクトルの和、実数倍は次のようになる。

$$\text{① } (a_1, a_2) + (b_1, b_2) = (a_1 + b_1, a_2 + b_2)$$

$$\text{② } k(a_1, a_2) = (ka_1, ka_2) \quad (k \text{ は実数})$$

一般に、 k, l を実数とするととき、次のことが成り立つ。

$$k(a_1, a_2) + l(b_1, b_2) = (ka_1 + lb_1, ka_2 + lb_2)$$

- 例 $\vec{a} = (-1, 2)$ 、 $\vec{b} = (3, 1)$ のとき、

$$\begin{aligned} 2\vec{a} - \vec{b} &= 2(-1, 2) - (3, 1) \\ &= (-2 - 3, 4 - 1) = (-5, 3) \end{aligned}$$

(注) $\vec{a} = \begin{pmatrix} -1 \\ 2 \end{pmatrix}$ 、 $\vec{b} = \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \end{pmatrix}$ のように縦に表記して、次のように計算してもよい。

$$2\vec{a} - \vec{b} = 2\begin{pmatrix} -1 \\ 2 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -2 - 3 \\ 4 - 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -5 \\ 3 \end{pmatrix}$$

確認問題 5 次の問いに答えよ。

- (1) 基本ベクトルを $\vec{e}_1 = (1, 0)$ 、 $\vec{e}_2 = (0, 1)$ とする。次のベクトルを成分で表せ。

- ① $\vec{p} = 3\vec{e}_1 + 4\vec{e}_2$

- ② $\vec{p} = -2\vec{e}_1 + 5\vec{e}_2$

- (2) 基本ベクトルを $\vec{e}_1 = (1, 0)$ 、 $\vec{e}_2 = (0, 1)$ とする。次のベクトルを \vec{e}_1 、 \vec{e}_2 を用いて表せ。

- ① $\vec{q} = (4, 7)$

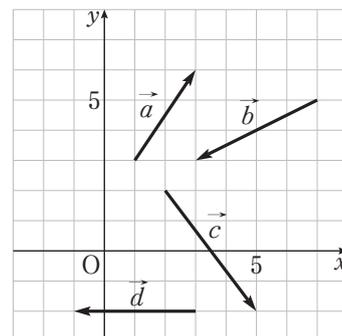
- ② $\vec{q} = (-2, -5)$

- (3) 次の 2 つのベクトル \vec{a} 、 \vec{b} が等しくなるような s 、 t の値を求めよ。

- ① $\vec{a} = (t, 2)$ 、 $\vec{b} = (s - 1, 2t)$

- ② $\vec{a} = (3t + 1, s - 5)$ 、 $\vec{b} = (4, t + 1)$

- (4) 右の図のベクトル \vec{a} 、 \vec{b} 、 \vec{c} 、 \vec{d} を成分で表せ。また、それぞれの大きさを求めよ。



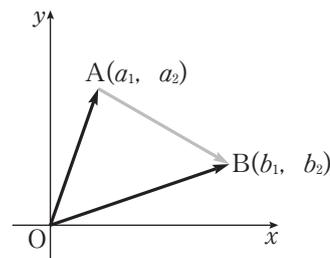
Point 7 点の座標とベクトルの成分

●座標とベクトル

2点 $A(a_1, a_2)$, $B(b_1, b_2)$ について, $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA}$ であるから,

$$\overrightarrow{AB} = (b_1 - a_1, b_2 - a_2)$$

$$|\overrightarrow{AB}| = \sqrt{(b_1 - a_1)^2 + (b_2 - a_2)^2} \quad \leftarrow \text{2点 A, B間の距離}$$



例 2点 $A(2, 1)$, $B(5, -3)$ について,

$$\overrightarrow{AB} = (5 - 2, -3 - 1) = (3, -4)$$

$$|\overrightarrow{AB}| = \sqrt{3^2 + (-4)^2} = 5$$

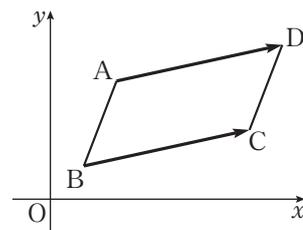
●座標平面上の平行四辺形の頂点

四角形 $ABCD$ が平行四辺形であるための必要十分条件は, 対辺が平行でかつ等しいことであり, これをベクトルを用いて表すと,

$$\overrightarrow{AD} = \overrightarrow{BC}$$

となる。

(注) $\overrightarrow{DA} = \overrightarrow{CB}$, $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{DC}$ などでもよい。



例題 4点 $A(1, 2)$, $B(3, 4)$, $C(4, 0)$, D を頂点とする平行四辺形 $ABCD$ がある。頂点 D の座標を求めよ。

解き方 頂点 D の座標を (x, y) とおいて, $\overrightarrow{AD} = \overrightarrow{BC}$ となるような x, y の値を求める。

解答 頂点 D の座標を (x, y) とすると,

$$\overrightarrow{AD} = (x - 1, y - 2)$$

$$\overrightarrow{BC} = (4 - 3, 0 - 4) = (1, -4)$$

$$\overrightarrow{AD} = \overrightarrow{BC} \text{ だから, } \begin{cases} x - 1 = 1 \\ y - 2 = -4 \end{cases}$$

これを解いて, $x = 2, y = -2$

よって, 頂点 D の座標は, $(2, -2)$

答 $(2, -2)$

確認問題 7 次の問いに答えよ。

□(1) 3点 $O(0, 0)$, $A(3, 0)$, $B(-1, 2)$ について, 次のベクトルを成分で表せ。また, その大きさを求めよ。

□① \overrightarrow{OB}

□② \overrightarrow{AB}

□③ \overrightarrow{BA}

□(2) 3点 $A(2, 4)$, $B(3, -5)$, $C(4, 1)$ について, 次のベクトルを成分で表せ。また, その大きさを求めよ。

□① \overrightarrow{AB}

□② \overrightarrow{BC}

□③ \overrightarrow{CA}

□(3) 4点 $A(3, 1)$, $B(s, 4)$, $C(2, t)$, $D(-3, 0)$ において, $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{CD}$ となるとき, s, t の値を求めよ。

□(4) 4点 A, B, C, D を頂点とする平行四辺形 $ABCD$ がある。3つの頂点の座標がそれぞれ次のとき, 残りの頂点の座標を求めよ。

□① $A(0, 1), B(3, 2), C(1, 4)$

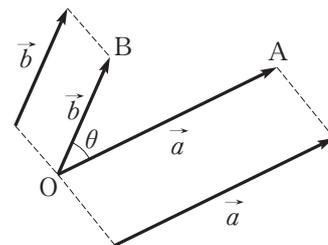
□② $B(-2, 1), C(0, 5), D(3, -4)$

□(5) 3点 $A(2, 2)$, $B(5, 0)$, $C(6, 3)$ に対して, これらの点を3つの頂点とする平行四辺形の残りの頂点 D の座標を, すべて求めよ。

Point 8 ベクトルの内積

● **ベクトルのなす角**…… $\vec{0}$ でない2つのベクトルを \vec{a} , \vec{b} とする。

1点Oを定め、 $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$, $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$ となる点A, Bをとる。このとき、半直線OA, OBのなす角 θ のうち、 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ であるものを、ベクトル \vec{a} , \vec{b} のなす角という。



● **ベクトルの内積**…… $\vec{0}$ でない2つのベクトル \vec{a} , \vec{b} のなす角を θ とする。

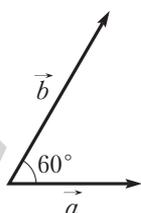
このとき、積 $|\vec{a}| |\vec{b}| \cos \theta$ を \vec{a} と \vec{b} の内積といい、記号 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ で表す。

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos \theta \quad (\text{ただし, } \theta \text{ は } \vec{a} \text{ と } \vec{b} \text{ のなす角})$$

$\vec{a} = \vec{0}$ または $\vec{b} = \vec{0}$ のときは、 \vec{a} と \vec{b} の内積を $\vec{a} \cdot \vec{b} = 0$ と定める。

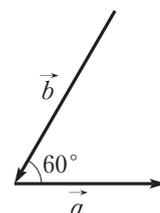
例 ① 右の図で、 $|\vec{a}| = 2$, $|\vec{b}| = 3$ のとき、 \vec{a} , \vec{b} のなす角は 60° であるから、

$$\begin{aligned} \vec{a} \cdot \vec{b} &= |\vec{a}| |\vec{b}| \cos 60^\circ \\ &= 2 \times 3 \times \frac{1}{2} = 3 \end{aligned}$$



② 右の図で、 $|\vec{a}| = 4$, $|\vec{b}| = 5$ のとき、 \vec{a} , \vec{b} のなす角は 120° であるから、

$$\begin{aligned} \vec{a} \cdot \vec{b} &= |\vec{a}| |\vec{b}| \cos 120^\circ \\ &= 4 \times 5 \times \left(-\frac{1}{2}\right) \\ &= -10 \end{aligned}$$



確認問題 8 次の問いに答えよ。

□(1) $|\vec{a}| = 3$, $|\vec{b}| = 4$ とし、 \vec{a} と \vec{b} のなす角を θ とする。次の各場合について、内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ を求めよ。

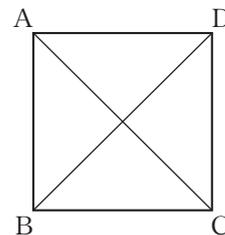
- ① $\theta = 30^\circ$ □② $\theta = 135^\circ$ □③ $\theta = 180^\circ$

□(2) $|\vec{a}| = 5$, $|\vec{b}| = 2$ とし、 \vec{a} と \vec{b} のなす角を θ とする。次の各場合について、内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ を求めよ。

- ① $\theta = 45^\circ$ □② $\theta = 90^\circ$ □③ $\theta = 120^\circ$

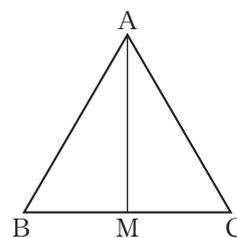
□(3) 1辺の長さが1の正方形 ABCD において、次の内積を求めよ。

- ① $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC}$ □② $\overrightarrow{AC} \cdot \overrightarrow{BD}$
□③ $\overrightarrow{BC} \cdot \overrightarrow{CA}$ □④ $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{CD}$



□(4) 1辺の長さが2である正三角形 ABC において、辺 BC の中点を M とする。このとき、次の内積を求めよ。

- ① $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AM}$ □② $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{BC}$
□③ $\overrightarrow{AM} \cdot \overrightarrow{BC}$ □④ $\overrightarrow{CA} \cdot \overrightarrow{BM}$



Point 9 内積と成分

●成分による内積の表示

$\vec{a} = (a_1, a_2)$, $\vec{b} = (b_1, b_2)$ のとき,

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = a_1 b_1 + a_2 b_2$$

〔証明〕 $\vec{0}$ でない2つのベクトル \vec{a} , \vec{b} に対して, 1点Oを定めて,

$\vec{a} = \overrightarrow{OA}$, $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$, $\angle AOB = \theta$ とする。

$0^\circ < \theta < 180^\circ$ のとき, $\triangle OAB$ に余弦定理を適用すると,

$$AB^2 = OA^2 + OB^2 - 2OA \times OB \times \cos \theta \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

①は, $\theta = 0^\circ$, 180° のときも成り立つ。

$$AB = |\vec{b} - \vec{a}|, \quad OA = |\vec{a}|, \quad OB = |\vec{b}|$$

$$OA \times OB \times \cos \theta = \vec{a} \cdot \vec{b}$$

であるから, ①は次のように表される。

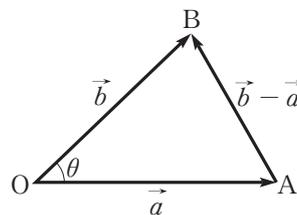
$$|\vec{b} - \vec{a}|^2 = |\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 - 2(\vec{a} \cdot \vec{b})$$

よって, $(b_1 - a_1)^2 + (b_2 - a_2)^2 = (a_1^2 + a_2^2) + (b_1^2 + b_2^2) - 2(\vec{a} \cdot \vec{b})$

ゆえに, $\vec{a} \cdot \vec{b} = a_1 b_1 + a_2 b_2$

この式は, $\vec{a} = \vec{0}$ または $\vec{b} = \vec{0}$ のときも, 明らかに成り立つ。

終



●ベクトルのなす角の余弦

$\vec{0}$ でない2つのベクトル $\vec{a} = (a_1, a_2)$, $\vec{b} = (b_1, b_2)$ のなす角を θ とすると, $\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos \theta$ だから, 次が成り立つ。

$$\cos \theta = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}| |\vec{b}|} = \frac{a_1 b_1 + a_2 b_2}{\sqrt{a_1^2 + a_2^2} \sqrt{b_1^2 + b_2^2}} \quad (\text{ただし, } 0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ)$$

例 $\vec{a} = (1, 2)$, $\vec{b} = (-1, 3)$ のなす角 θ

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = 1 \times (-1) + 2 \times 3 = 5$$

$$\text{また, } |\vec{a}| = \sqrt{1^2 + 2^2} = \sqrt{5}, \quad |\vec{b}| = \sqrt{(-1)^2 + 3^2} = \sqrt{10}$$

$$\text{だから, } \cos \theta = \frac{5}{\sqrt{5} \sqrt{10}} = \frac{1}{\sqrt{2}}$$

$$0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ \text{ だから, } \theta = 45^\circ$$

確認問題 9 次の問いに答えよ。

□(1) 次のベクトル \vec{a} , \vec{b} の内積を求めよ。

□① $\vec{a} = (3, 2)$, $\vec{b} = (-1, 5)$

□② $\vec{a} = (-5, 4)$, $\vec{b} = (-2, 3)$

□③ $\vec{a} = (4, -6)$, $\vec{b} = (3, 2)$

□④ $\vec{a} = (\sqrt{5}, 2)$, $\vec{b} = (-1, \sqrt{5})$

□(2) 次の条件を満たす \vec{a} , \vec{b} のなす角 θ を求めよ。

□① $|\vec{a}| = 4$, $|\vec{b}| = 3$, $\vec{a} \cdot \vec{b} = 6$

□② $|\vec{a}| = 2$, $|\vec{b}| = \sqrt{2}$, $\vec{a} \cdot \vec{b} = -2$

□(3) 次のベクトル \vec{a} , \vec{b} のなす角 θ を求めよ。

□① $\vec{a} = (4, 1)$, $\vec{b} = (-5, 3)$

□② $\vec{a} = (1, 0)$, $\vec{b} = (0, -5)$

□③ $\vec{a} = (\sqrt{3}, 2)$, $\vec{b} = (1, 3\sqrt{3})$

□④ $\vec{a} = (1, 1)$, $\vec{b} = (1 - \sqrt{3}, 1 + \sqrt{3})$

Point 10 平行条件・垂直条件

● 平行条件…… $\vec{a} \neq \vec{0}$, $\vec{b} \neq \vec{0}$ で, $\vec{a} = (a_1, a_2)$, $\vec{b} = (b_1, b_2)$ のとき,

$$\text{① } \vec{a} \parallel \vec{b} \iff \vec{b} = k\vec{a} \text{ となる実数 } k \text{ がある}$$

$$\iff (b_1, b_2) = k(a_1, a_2) \text{ となる実数 } k \text{ がある}$$

$$\text{② } \vec{a} \parallel \vec{b} \iff a_1b_2 - a_2b_1 = 0$$

[証明] \vec{a} と \vec{b} のなす角を θ とすると, $\vec{a} \parallel \vec{b}$ のとき $\theta = 0^\circ$ または 180° だから,

$$\vec{a} \parallel \vec{b} \iff \vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \text{ または } \vec{a} \cdot \vec{b} = -|\vec{a}| |\vec{b}|$$

$$\iff (\vec{a} \cdot \vec{b})^2 - (|\vec{a}| |\vec{b}|)^2 = 0$$

$$\iff (a_1b_1 + a_2b_2)^2 - (a_1^2 + a_2^2)(b_1^2 + b_2^2) = 0$$

$$\iff a_1b_2 - a_2b_1 = 0$$

終

● 垂直条件…… $\vec{a} \neq \vec{0}$, $\vec{b} \neq \vec{0}$ で, $\vec{a} = (a_1, a_2)$, $\vec{b} = (b_1, b_2)$ のとき,

$$\vec{a} \perp \vec{b} \iff \vec{a} \cdot \vec{b} = 0$$

$$\iff a_1b_1 + a_2b_2 = 0$$

例 $\vec{a} = (3, 2)$, $\vec{b} = (x, 6)$ において,

$\vec{a} \parallel \vec{b}$ となるとき, $3 \times 6 - 2 \times x = 0$ より, $x = 9$

$\vec{a} \perp \vec{b}$ となるとき, $3 \times x + 2 \times 6 = 0$ より, $x = -4$

例題 ベクトル $\vec{a} = (2, -1)$ に垂直で, 大きさが 5 のベクトル \vec{b} を求めよ。

解き方 $\vec{b} = (x, y)$ として, $\vec{a} \cdot \vec{b} = 0$ と $|\vec{b}| = 5$ から x, y の連立方程式を作る。

解答 $\vec{b} = (x, y)$ とすると,

$\vec{a} \perp \vec{b}$ より,

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = 2 \times x + (-1) \times y = 0$$

$$y = 2x \quad \dots \text{①}$$

また, $|\vec{b}| = 5$ より, $|\vec{b}|^2 = 25$ だから,

$$x^2 + y^2 = 25 \quad \dots \text{②}$$

$$\text{①, ②より, } x^2 + (2x)^2 = 25$$

$$x^2 = 5$$

$$x = \pm \sqrt{5}$$

$$\text{①より, } x = \sqrt{5} \text{ のとき, } y = 2\sqrt{5}$$

$$x = -\sqrt{5} \text{ のとき, } y = -2\sqrt{5}$$

$$\text{よって, } \vec{b} = (\sqrt{5}, 2\sqrt{5}), (-\sqrt{5}, -2\sqrt{5})$$

$$\text{答 } \vec{b} = (\sqrt{5}, 2\sqrt{5}), (-\sqrt{5}, -2\sqrt{5})$$

確認問題 10 次の問いに答えよ。

□(1) 次のベクトル \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} のうち, 平行なベクトルはどれとどれか。また, 垂直なベクトルはどれとどれか。

$$\vec{a} = (4, -6), \quad \vec{b} = (3, 2), \quad \vec{c} = (-6, 9)$$

□(2) 2つのベクトル $\vec{a} = (-2, x)$, $\vec{b} = (3, x+1)$ において, 次のときの x の値を求めよ。

□① $\vec{a} \parallel \vec{b}$ となるとき

□② $\vec{a} \perp \vec{b}$ となるとき

□(3) $\vec{a} = (1, 2)$, $\vec{b} = (5, 6)$, $\vec{c} = (4, 5)$ のとき, $\vec{a} + t\vec{b}$ が \vec{c} と平行になるように, t の値を定めよ。

□(4) 2つのベクトル $\vec{a} = (2, 6)$, $\vec{b} = (x, y)$ が垂直で, $|\vec{b}| = \sqrt{10}$ となるとき, x, y の値を求めよ。

□(5) ベクトル $\vec{a} = (3, 4)$ がある。

□① \vec{a} に平行な単位ベクトル \vec{e}_1 を求めよ。

□② \vec{a} に垂直な単位ベクトル \vec{e}_2 を求めよ。

Point 11 内積の性質

● 内積の性質……ベクトルの内積について、次のことが成り立つ。

- ① $\vec{a} \cdot \vec{a} = |\vec{a}|^2$ ② $|\vec{a}| = \sqrt{\vec{a} \cdot \vec{a}}$ ③ $\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{a}$
 ④ $(\vec{a} + \vec{b}) \cdot \vec{c} = \vec{a} \cdot \vec{c} + \vec{b} \cdot \vec{c}$ $\vec{a} \cdot (\vec{b} + \vec{c}) = \vec{a} \cdot \vec{b} + \vec{a} \cdot \vec{c}$
 ⑤ $(k\vec{a}) \cdot \vec{b} = \vec{a} \cdot (k\vec{b}) = k(\vec{a} \cdot \vec{b})$ (k は実数)

内積の性質を利用すると、ベクトルの計算が整式の展開と同じように計算できる。

例 ① $(\vec{a} + \vec{b}) \cdot (\vec{a} - \vec{b})$
 $= \vec{a} \cdot (\vec{a} - \vec{b}) + \vec{b} \cdot (\vec{a} - \vec{b})$
 $= \vec{a} \cdot \vec{a} - \vec{a} \cdot \vec{b} + \vec{b} \cdot \vec{a} - \vec{b} \cdot \vec{b}$
 $= \vec{a} \cdot \vec{a} - \vec{b} \cdot \vec{b}$
 $= |\vec{a}|^2 - |\vec{b}|^2$

② $|\vec{a} + \vec{b}|^2 = (\vec{a} + \vec{b}) \cdot (\vec{a} + \vec{b})$
 $= \vec{a} \cdot (\vec{a} + \vec{b}) + \vec{b} \cdot (\vec{a} + \vec{b})$
 $= \vec{a} \cdot \vec{a} + \vec{a} \cdot \vec{b} + \vec{b} \cdot \vec{a} + \vec{b} \cdot \vec{b}$
 $= |\vec{a}|^2 + 2\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2$

例題 $|\vec{a}| = 1, |\vec{b}| = 2, |\vec{a} - \vec{b}| = \sqrt{3}$ のとき、次の値を求めよ。

- (1) $\vec{a} \cdot \vec{b}$ (2) $|\vec{a} + 2\vec{b}|$

解き方 (1) まず、 $|\vec{a} - \vec{b}| = \sqrt{3}$ の両辺を2乗して左辺を $|\vec{a}|^2, |\vec{b}|^2, \vec{a} \cdot \vec{b}$ を用いた式で表す。
 (2) (1)の結果を使って、 $|\vec{a} + 2\vec{b}|^2$ の値を求める。

解答 (1) $|\vec{a} - \vec{b}| = \sqrt{3}$ の両辺を2乗すると、
 $|\vec{a} - \vec{b}|^2 = 3$
 $(\vec{a} - \vec{b}) \cdot (\vec{a} - \vec{b}) = 3$
 $|\vec{a}|^2 - 2\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2 = 3$
 $1^2 - 2\vec{a} \cdot \vec{b} + 2^2 = 3$
 $5 - 2\vec{a} \cdot \vec{b} = 3$
 $\vec{a} \cdot \vec{b} = 1$

(2) $|\vec{a} + 2\vec{b}|^2 = (\vec{a} + 2\vec{b}) \cdot (\vec{a} + 2\vec{b})$
 $= |\vec{a}|^2 + 4\vec{a} \cdot \vec{b} + 4|\vec{b}|^2$
 $= 1^2 + 4 \times 1 + 4 \times 2^2$
 $= 21$
 $|\vec{a} + 2\vec{b}| \geq 0$ だから、
 $|\vec{a} + 2\vec{b}| = \sqrt{21}$

答 1

答 $\sqrt{21}$

確認問題11 次の問いに答えよ。

□(1) $\vec{a} = (a_1, a_2), \vec{b} = (b_1, b_2), \vec{c} = (c_1, c_2)$ として、次の内積の性質が成り立つことを示せ。

- ① $(\vec{a} + \vec{b}) \cdot \vec{c} = \vec{a} \cdot \vec{c} + \vec{b} \cdot \vec{c}$ □② $\vec{a} \cdot (\vec{b} + \vec{c}) = \vec{a} \cdot \vec{b} + \vec{a} \cdot \vec{c}$

□(2) 次の等式を証明せよ。

□① $(\vec{a} + \vec{b}) \cdot (\vec{c} + \vec{d}) = \vec{a} \cdot \vec{c} + \vec{a} \cdot \vec{d} + \vec{b} \cdot \vec{c} + \vec{b} \cdot \vec{d}$

□② $|3\vec{a} + 2\vec{b}|^2 = 9|\vec{a}|^2 + 12\vec{a} \cdot \vec{b} + 4|\vec{b}|^2$

□(3) $|\vec{a}| = 2, |\vec{b}| = 3, \vec{a} \cdot \vec{b} = -2$ のとき、次の値を求めよ。

- ① $(\vec{a} - \vec{b}) \cdot (\vec{a} + 2\vec{b})$ □② $|3\vec{a} + \vec{b}|$

□(4) $|\vec{a}| = 3, |\vec{b}| = 1, |\vec{a} + \vec{b}| = \sqrt{13}$ のとき、

- ① $\vec{a} \cdot \vec{b}$ の値を求めよ。 □② \vec{a} と \vec{b} のなす角 θ を求めよ。

□(5) $|\vec{a}| = \sqrt{3}, |\vec{b}| = 2, |\vec{a} - \vec{b}| = 1$ のとき、次の値を求めよ。

- ① $\vec{a} \cdot (\vec{a} + \vec{b})$ □② $|2\vec{a} - 3\vec{b}|$

Point 12 最大・最小

例題 $\vec{a} = (3, 1)$, $\vec{b} = (1, 2)$ のとき, $|\vec{a} + t\vec{b}|$ の最小値とそのときの実数 t の値を求めよ。

解き方 $|\vec{a} + t\vec{b}|^2$ を計算すると t の 2 次式になる。 $|\vec{a} + t\vec{b}| \geq 0$ だから, $|\vec{a} + t\vec{b}|^2$ が最小のとき $|\vec{a} + t\vec{b}|$ も最小である。

解答 $\vec{a} + t\vec{b} = (3, 1) + t(1, 2)$

$$= (3+t, 1+2t)$$

$$\begin{aligned} |\vec{a} + t\vec{b}|^2 &= (3+t)^2 + (1+2t)^2 \\ &= 9 + 6t + t^2 + 1 + 4t + 4t^2 \\ &= 5t^2 + 10t + 10 \\ &= 5(t+1)^2 + 5 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} |\vec{a} + t\vec{b}|^2 &= (\vec{a} + t\vec{b}) \cdot (\vec{a} + t\vec{b}) \\ &= |\vec{a}|^2 + 2t\vec{a} \cdot \vec{b} + t^2|\vec{b}|^2 \\ |\vec{a}|^2 &= 10, |\vec{b}|^2 = 5, \vec{a} \cdot \vec{b} = 5 \text{ だから,} \\ |\vec{a} + t\vec{b}|^2 &= 5t^2 + 10t + 10 \\ &\text{このように求めてもよい。} \end{aligned}$$

よって, $|\vec{a} + t\vec{b}|^2$ は, $t = -1$ のとき, 最小値 5 をとる。

$|\vec{a} + t\vec{b}| \geq 0$ だから, このとき $|\vec{a} + t\vec{b}|$ も最小となる。

すなわち, $|\vec{a} + t\vec{b}|$ は, $t = -1$ のとき, 最小値 $\sqrt{5}$ をとる。

答 最小値 $\sqrt{5}$ ($t = -1$)

別解 点 $(3, 1)$ を A, 点 $(1, 2)$ を B とし, $\vec{OP} = \vec{a} + t\vec{b}$ とすると,

$$\vec{OP} = \vec{OA} + t\vec{OB}$$

点 P は, 点 A を通り \vec{b} に平行な直線上にあるから, OP が最小になるのは, OP がこの直線と垂直になるときである。

このとき, $\vec{OP} \perp \vec{b}$ より, $\vec{OP} \cdot \vec{b} = 0$ だから,

$$(\vec{a} + t\vec{b}) \cdot \vec{b} = \vec{a} \cdot \vec{b} + t|\vec{b}|^2 = 0$$

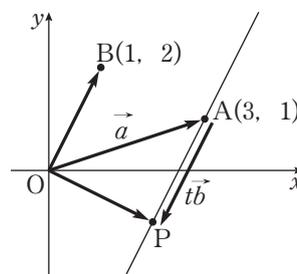
$$\vec{a} \cdot \vec{b} = 5, |\vec{b}|^2 = 5 \text{ より, } 5 + 5t = 0$$

$$t = -1$$

$\vec{OP} = (3, 1) - (1, 2) = (2, -1)$ だから,

$$|\vec{OP}| = \sqrt{2^2 + (-1)^2} = \sqrt{5}$$

よって, $|\vec{OP}|$ は, $t = -1$ のとき, 最小値 $\sqrt{5}$ をとる。



答 最小値 $\sqrt{5}$ ($t = -1$)

確認問題 12 次の問いに答えよ。

□(1) t を実数とする。 $\vec{a} = (t, 1)$, $\vec{b} = (t-1, 5t)$ のとき, 内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ の最小値とそのとき t の値を求めよ。

□(2) t を実数とする。ベクトル $\vec{a} = (t+1, t-3)$ において, $|\vec{a}|$ の最小値とそのとき t の値を求めよ。

□(3) 2つのベクトル \vec{a} , \vec{b} は, $|\vec{a}| = 3$, $|\vec{b}| = 1$, $\vec{a} \cdot \vec{b} = 2$ を満たす。 t を実数とするとき,

□① $|\vec{a} + t\vec{b}|^2$ を t の 2 次式で表せ。

□② $|\vec{a} + t\vec{b}|$ の最小値とそのとき t の値を求めよ。

□(4) 次の 2 つのベクトル \vec{a} , \vec{b} について, $|\vec{a} + t\vec{b}|$ の最小値とそのとき t の値を求めよ。

□① $\vec{a} = (1, 5)$, $\vec{b} = (3, 2)$

□② $\vec{a} = (2, -1)$, $\vec{b} = (4, 2)$

□(5) $\vec{a} = (1, 0)$, $\vec{b} = (2, -1)$ のとき, $\vec{c} = t\vec{a} + (1-t)\vec{b}$ とする。

□① \vec{c} を成分で表せ。

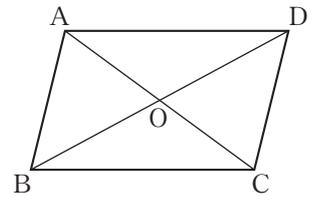
□② $|\vec{c}|$ の最小値とそのとき t の値を求めよ。

練成問題 A

1 次の問いに答えよ。

⇒ Point 1・2

- (1) 右の図の平行四辺形 ABCD について、次のベクトルと等しいベクトルをあげよ。ただし、対角線の交点を O とする。



- ① \overrightarrow{CD} □② $\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{AD}$ □③ $\overrightarrow{BO} - \overrightarrow{AO}$

- (2) 4点 A, B, C, D について、次の等式が成り立つことを証明せよ。

$$\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{DA} = \overrightarrow{DC} + \overrightarrow{CB}$$

- (3) 四角形 ABCD の対角線の交点を O とする。次の等式が成り立つとき、四角形 ABCD はどのような四角形か。

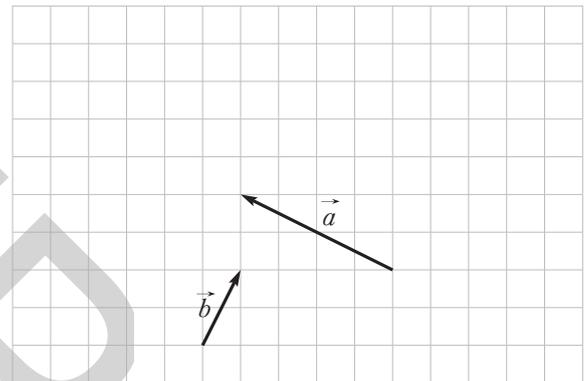
$$\overrightarrow{OA} - \overrightarrow{OB} = \overrightarrow{OD} - \overrightarrow{OC}$$

2 次の問いに答えよ。

⇒ Point 3

- (1) 右の図のベクトル \vec{a} , \vec{b} について、次のベクトルを図示せよ。

- ① $-\frac{3}{2}\vec{a}$ □② $2\vec{a} - 3\vec{b}$

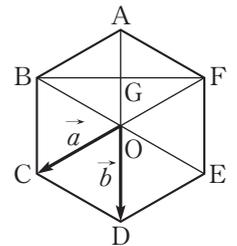


- (2) 次の等式を満たすベクトル \vec{x} を \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ。

$$3(\vec{x} + \vec{a}) = 2(\vec{x} - \vec{a} + 2\vec{b})$$

- 3 右の図のような O を中心とする正六角形 ABCDEF において、 $\overrightarrow{OC} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OD} = \vec{b}$ とする。次のベクトルを \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ。ただし、G は線分 AO と BF の交点である。

⇒ Point 4



- (1) \overrightarrow{DE} □(2) \overrightarrow{OB} □(3) \overrightarrow{GD}
 □(4) \overrightarrow{AC} □(5) \overrightarrow{FB} □(6) \overrightarrow{GE}

4 次の問いに答えよ。

⇒ Point 5・6

- (1) $\vec{a} = (1, -5)$, $\vec{b} = (3, 4)$ のとき、次のベクトルを成分で表せ。

- ① $2\vec{a}$ □② $-\vec{a} + 2\vec{b}$ □③ $7\vec{a} - 5\vec{b}$

- (2) $\vec{a} = (2, 1)$, $\vec{b} = (4, -3)$ のとき、等式 $3\vec{x} - 4\vec{a} = 2(\vec{x} + \vec{b})$ を満たすベクトル \vec{x} を成分で表せ。

- (3) $\vec{a} = (3, -2)$, $\vec{b} = (4, 3)$ のとき、次のベクトルを \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ。

- ① $\vec{p} = (-7, -18)$ □② $\vec{q} = (0, 1)$

→ Point 7

5 次の問いに答えよ。

□(1) 3点 $A(-1, 5)$, $B(2, 3)$, $C(6, -2)$, について, 次のベクトルを成分で表せ。また, その大きさを求めよ。

□① \overrightarrow{AB}

□② \overrightarrow{AC}

□③ \overrightarrow{CB}

□(2) 4点 $A(1, 3)$, $B(3, 5)$, $C(4, 1)$, D を頂点とする四角形 $ABCD$ が平行四辺形であるとき, 頂点 D の座標を求めよ。

6 次の問いに答えよ。

→ Point 8・9

□(1) \vec{a} , \vec{b} のなす角を θ とする。次の場合に, 内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ を求めよ。

□① $|\vec{a}|=2$, $|\vec{b}|=3$, $\theta=45^\circ$

□② $|\vec{a}|=4$, $|\vec{b}|=1$, $\theta=150^\circ$

□(2) $\triangle ABC$ において, $\angle A=105^\circ$, $\angle B=30^\circ$, $AB=6$, $AC=3\sqrt{2}$ のとき, 内積 $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{BC}$ を求めよ。

□(3) 次の2つのベクトル \vec{a} , \vec{b} の内積と, そのなす角を求めよ。

□① $\vec{a}=(3, -2)$, $\vec{b}=(5, 1)$

□② $\vec{a}=(1, -\sqrt{3})$, $\vec{b}=(\sqrt{3}, 3)$

7 次の問いに答えよ。

→ Point 10

□(1) 2つのベクトル $\vec{a}=(x, -3)$, $\vec{b}=(-4, x-1)$ において, 次のときの x の値を求めよ。

□① $\vec{a} \parallel \vec{b}$ となるとき

□② $\vec{a} \perp \vec{b}$ となるとき

□(2) $\vec{a}=(x, -1)$, $\vec{b}=(2, -3)$ のとき, $\vec{a}+3\vec{b}$ と $\vec{a}-\vec{b}$ が平行になるように実数 x の値を定めよ。

□(3) ベクトル $\vec{a}=(-2, 4)$ がある。

□① \vec{a} に平行な単位ベクトル \vec{e} を求めよ。

□② \vec{a} に垂直で, 大きさが5のベクトル \vec{b} を求めよ。

8 次の問いに答えよ。

→ Point 11

□(1) 次の等式を証明せよ。

$$|\vec{a} + \vec{b}|^2 + |\vec{a} - \vec{b}|^2 = 2(|\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2)$$

□(2) $|\vec{a}|=3$, $|\vec{b}|=2$, $\vec{a} \cdot \vec{b}=4$ のとき, $(\vec{a} + \vec{b}) \cdot (2\vec{a} - \vec{b})$ の値を求めよ。

□(3) $|\vec{a}|=4$, $|\vec{b}|=1$, $|\vec{a} + \vec{b}|=\sqrt{11}$ のとき, $|3\vec{a} - 2\vec{b}|$ の値を求めよ。

9 次の問いに答えよ。

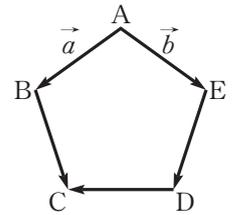
→ Point 12

□(1) $\vec{a}=(1, t+1)$, $\vec{b}=(3t, -t)$ のとき, 内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ の最大値とそのときの実数 t の値を求めよ。

□(2) $\vec{a}=(2, 4)$, $\vec{b}=(1, -1)$ のとき, $|\vec{a} + t\vec{b}|$ の最小値とそのときの実数 t の値を求めよ。

練成問題 B

1 正五角形 ABCDE において、 $\overrightarrow{AB} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{AE} = \vec{b}$ とおくとき、次のベクトルを \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。
(熊本県立大)



- (1) \overrightarrow{BC}
 (2) \overrightarrow{DC}
 (3) \overrightarrow{ED}

2 次の問いに答えよ。

- (1) 互いに平行でない 2 つのベクトル \vec{a} 、 \vec{b} (ただし、 $\vec{a} \neq \vec{0}$ 、 $\vec{b} \neq \vec{0}$ とする) があって、これらが $s(\vec{a} + 3\vec{b}) + t(-2\vec{a} + \vec{b}) = -5\vec{a} - \vec{b}$ を満たすとき、 s 、 t の値を求めよ。
(撰南大)
- (2) 平面上の 2 点 $A(2, 3)$ 、 $B(-3, 2)$ がある。点 $C(-4, 7)$ に対して $\overrightarrow{OC} = x\overrightarrow{OA} + y\overrightarrow{OB}$ となる x 、 y を求めよ。
(明治大)
- (3) 2 つのベクトル $\vec{a} = (3, -2)$ 、 $\vec{b} = (-6, x+1)$ が平行であるとき、 x の値を求めよ。
(工学院大)
- (4) ベクトル $\vec{a} = (1, 2)$ 、 $\vec{b} = (1, 1)$ に対し、ベクトル $t\vec{a} + \vec{b}$ の大きさが 1 となる t の値を求めよ。
(京都産業大)

3 次の問いに答えよ。

- (1) 2 つのベクトル \vec{a} と \vec{b} が、 $|\vec{a}| = 2$ 、 $|\vec{b}| = 3$ 、 $|\vec{a} - \vec{b}| = 3$ を満たすとき、 $(\vec{a} + \vec{b}) \cdot (2\vec{a} - \vec{b})$ を求めよ。
(東京経済大)
- (2) 2 つのベクトル $\vec{a} = (2, 2)$ と $\vec{b} = (x, 2)$ のなす角が 60° であるとき、 x の値を求めよ。
(神奈川大)
- (3) 平面上に 2 つのベクトル $\vec{a} = (1, -9)$ 、 $\vec{b} = (1, 1)$ があり、ベクトル $\vec{c} = \vec{a} + t\vec{b}$ (ただし、 t は実数) とする。 $|\vec{c}|$ が最小になる t の値およびそのときの内積 $\vec{b} \cdot \vec{c}$ を求めよ。
(星薬科大)
- (4) ベクトル \vec{a} 、 \vec{b} が $|\vec{a} + \vec{b}| = 8$ 、 $|\vec{a} - \vec{b}| = 6$ を満たし、 $\vec{a} + \vec{b}$ と $\vec{a} - \vec{b}$ が直交しているとき、次の値を求めよ。ただし、 \vec{a} と \vec{b} のなす角を θ とする。
(関西学院大)
- ① $\vec{a} \cdot \vec{b}$
 ② $|\vec{a}|$
 ③ $|\vec{b}|$
 ④ $\cos \theta$
- (5) 零ベクトルでない 2 つのベクトル \vec{a} 、 \vec{b} に対して、 $\vec{a} + t\vec{b}$ と $\vec{a} + 3t\vec{b}$ が垂直であるような実数 t がただ 1 つ存在するとき、 \vec{a} と \vec{b} のなす角 θ ($0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$) を求めよ。
(関西大)

4 次の空欄に当てはまる数を答えよ。

(東京薬科大)

$|\vec{a}|=3$, $|\vec{b}|=4$, $|\vec{a}+\vec{b}|=6$ のとき, \vec{a} と \vec{b} の内積は $\vec{a}\cdot\vec{b}=\square$ である。

そして, $0\leq t\leq 1$ のとき, $|t\vec{a}+(1-t)\vec{b}|$ を最小にする t の値は $t_0=\square$ であり, 最大にする t の値は $t_1=\square$ である。

5 平面上のベクトル \vec{x} , \vec{y} , \vec{a} が $2\vec{x}+3\vec{y}=\vec{a}$, $\vec{x}\cdot\vec{y}=0$, $|\vec{x}|=|\vec{y}|$, $\vec{a}=(7, -4)$ を満たしているとする。次の問いに答えよ。

(岐阜大)

(1) $|\vec{x}|$ および $\vec{a}\cdot\vec{x}$ の値を求めよ。

(2) \vec{x} および \vec{y} を成分で表せ。

6 平面上のベクトル \vec{a} , \vec{b} が, $|2\vec{a}+\vec{b}|=2$, $|3\vec{a}-5\vec{b}|=1$ を満たしている。 $\vec{p}=2\vec{a}+\vec{b}$, $\vec{q}=3\vec{a}-5\vec{b}$ とおく。次の問いに答えよ。

(名城大)

(1) \vec{a} と \vec{b} をそれぞれ \vec{p} と \vec{q} を用いて表せ。

(2) 内積 $\vec{p}\cdot\vec{q}$ のとりうる値の範囲を求めよ。

(3) $|\vec{a}+\vec{b}|$ の最大値と最小値を求めよ。

7 m, n を自然数とする。 $\triangle OAB$ が $|\overrightarrow{OB}|=\sqrt{3}|\overrightarrow{OA}|$, $2\overrightarrow{OA}\cdot\overrightarrow{OB}=-m\overrightarrow{OA}\cdot\overrightarrow{OA}=-n\overrightarrow{OB}\cdot\overrightarrow{OB}$ を満たしているとき, 次の問いに答えよ。

(富山大)

(1) $\theta=\angle AOB$ とするとき, m, n および $\cos\theta$ の値を求めよ。

(2) \overrightarrow{OA} と $\overrightarrow{OA}+\overrightarrow{OB}$ のなす角を求めよ。

8 平面上のベクトル $\vec{a}=(a_1, a_2)$, $\vec{b}=(b_1, b_2)$ に対して, 実数 $\vec{a}\ast\vec{b}$ を $\vec{a}\ast\vec{b}=a_1b_2-a_2b_1$ で定義する。次の問いに答えよ。

(立教大)

(1) $\vec{a}\neq\vec{0}$, $\vec{a}\ast\vec{b}=0$ ならば, \vec{b} は, ある実数 x があって $\vec{b}=x\vec{a}$ と表されることを示せ。

(2) $\vec{0}$ でない2つのベクトル \vec{a} , \vec{b} のなす角度を θ とするとき, $|\vec{a}\ast\vec{b}|=|\vec{a}||\vec{b}|\sin\theta$ が成立することを示せ。

(3) $|\vec{a}|=2$, $|\vec{b}|=3$, $|\vec{a}+\vec{b}|=\sqrt{5}$ のとき, $|\vec{a}\ast\vec{b}|$ の値を求めよ。

入試問題研究 (基本編 1)

1 次の問いに答えよ。また、空欄に当てはまる数や式を答えよ。

□(1) $\triangle ABC$ において、3 辺の長さが $AB=6$, $AC=4$, $BC=3$ ならば、 $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} = \square$ である。(日本大)

□(2) ベクトル $\vec{a}=(1, 2)$, $\vec{b}=(1, 1)$ に対し、ベクトル $t\vec{a}+\vec{b}$ の大きさが 1 となる t の値を求めよ。
(京都産業大)

□(3) $|\vec{a}|=2|\vec{b}| \neq 0$ で、 $\vec{a}-\vec{b}$ と $2\vec{a}+5\vec{b}$ が垂直であるとき、2 つのベクトル \vec{a} と \vec{b} のなす角は \square である。
(兵庫医科大)

□(4) ベクトル \vec{a} , \vec{b} について、 $|\vec{a}|=\sqrt{3}$, $|\vec{b}|=2$, $|\vec{a}-\vec{b}|=\sqrt{5}$ とする。このとき、 $\vec{a} \cdot \vec{b} = \square$,
 $|\vec{a}+\vec{b}| = \square$ である。
また実数 t に対して、 $|\vec{a}+t\vec{b}|$ は、 $t = \square$ のとき最小値 \square をとる。
(西南学院大)

□(5) 平面上に 3 点 $A(6, 7)$, $B(-1, 3)$, $P(2, k)$ がある。ベクトル \overrightarrow{PA} と \overrightarrow{PB} の内積を k で表せば、
 $\overrightarrow{PA} \cdot \overrightarrow{PB} = \square$ であるので、 $\angle APB$ が直角であるとき、 k の値を小さい方から大きい方へ並べると
 \square , \square である。
また、3 点 A , B , P が一直線上にあるときは $k = \square$ である。
(神奈川工科大)

2 次の空欄に当てはまる数を答えよ。

□(1) 平面上に $\triangle OAB$ がある。線分 AB を $2:1$ に内分する点を C とする。このとき、
 $\overrightarrow{OC} = \square \overrightarrow{OA} + \square \overrightarrow{OB}$ である。
(湘南工科大)

□(2) $\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の二等分線と辺 BC との交点を D とする。 $AB:CA=3:2$ ならば、
 $\overrightarrow{AD} = \square \overrightarrow{AB} + \square \overrightarrow{AC}$ となる。
(東邦大)

□(3) $\triangle OAB$ において、辺 OA を $3:2$ に内分する点を P とし、線分 BP を $5:7$ に内分する点を Q とする。
線分 AQ を延長して辺 OB と交わる点を R とすると、 $\overrightarrow{OR} = \square \overrightarrow{OB}$ である。
(日本獣医畜産大)

3 台形 ABCD において、辺 AB と辺 DC が平行であり、 $\angle A = 60^\circ$ 、 $AB = 3$ 、 $AD = 2$ 、 $DC = 1$ とする。
 $\triangle ABC$ の重心を P、 $\triangle ACD$ の重心を Q とし、 $\overrightarrow{AB} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{AD} = \vec{b}$ とするとき、次の問いに答えよ。(福岡大)

(1) \overrightarrow{AP} を \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表し、 $|\overrightarrow{AP}|$ を求めよ。

(2) $\triangle APQ$ の面積を求めよ。

4 O を原点とする座標平面上の 2 点 A(2, 0)、B(1, 2) に対して、点 P の位置を $\overrightarrow{OP} = \alpha \overrightarrow{OA} + (1 - \alpha) \overrightarrow{OB}$ によって定める。次の空欄に当てはまるものを答えよ。(東京工科大)

(1) $\alpha = \frac{1}{3}$ のとき、点 P は線分 AB を の比に内分する。また、このとき $|\overrightarrow{OP}| = \input{text}$ である。

(2) \overrightarrow{AB} と \overrightarrow{OP} が直交するとき、 $\overrightarrow{OP} = (\input{text}, \input{text})$ である。

(3) 線分 OP が $\angle BOA$ の二等分線となるとき、 $\alpha = \input{text}$ である。

5 $\triangle OAB$ において、 $OA = 1$ 、 $OB = 4$ 、 $\angle AOB = 120^\circ$ とし、点 O から辺 AB に下ろした垂線の足を H、辺 OB の中点を M、線分 OH と線分 AM の交点を C とする。 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ とおくと、次の問いに答えよ。(大阪女子大)

(1) AH : HB を求めよ。

(2) \overrightarrow{OC} を \vec{a} と \vec{b} を用いて表せ。

6 $\triangle ABC$ において、辺 AB を 2 : 1 に内分する点を D、辺 AC を 3 : 1 に内分する点を E とし、線分 CD、BE の交点を P とする。(佐賀大)

(1) \overrightarrow{AP} を \overrightarrow{AB} 、 \overrightarrow{AC} を用いて表せ。

(2) $AB = 3$ 、 $AC = 4$ 、 $AP = \sqrt{7}$ のとき、 $\angle BAC$ の大きさを求めよ。

7 平面上に 3 点 O、A、B があり、 $\angle AOB = 30^\circ$ で $OA = 2$ 、 $OB = 3$ とする。 s と t が条件 $0 \leq s + t \leq 1$ 、 $0 \leq s$ 、 $0 \leq t$ を満たすとき、 $\overrightarrow{OP} = \frac{s}{3} \overrightarrow{OA} + \frac{t}{2} \overrightarrow{OB}$ で決まる点 P の描く図形の面積は である。
 空欄に当てはまる数を答えよ。(神奈川大)

8 次の問いに答えよ。また、空欄に当てはまるものを答えよ。

□(1) 2つのベクトル $\vec{a} = (s, 3s-1, s-1)$, $\vec{b} = (t-1, 4, t-3)$ が平行であるとき, s, t の値を求めよ。
(大阪工業大)

□(2) $A(1, 2, 4)$, $B(2, 5, 6)$, $C(x, y, 10)$ の3点が同一直線上にあるとき, x と y の値を求めよ。
(東京経済大)

□(3) 空間に相異なる4点 A, B, C, D がある。 $A(1, 0, 0)$, $B(0, 1, 2)$ であり, 三角形 ABC の重心は $G(1, 1, 1)$ であるとする。次の問いに答えよ。
(立教大)

□① 点 C の座標を求めよ。

□② 4点 A, B, C, D が線分 AC を対角線とする平行四辺形の頂点であるとき, 点 D の座標を求めよ。

□③ ②における平行四辺形 $ABCD$ の面積を求めよ。

□(4) xyz 空間に2点 $A(1, 2, 2)$, $B(4, -4, 8)$ をとる。線分 AB を $2:1$ に内分する点を C とすると, 点 C の座標は $(\square, -\square, \square)$ である。また O を原点とすると, $\cos \angle AOC = \square$ である。
(青山学院大)

□(5) 原点 O と点 $A(-1, 2, 3)$, 点 $B(-2, 4, 2)$ がある。2点 A, B を通る直線上に点 C があり, $\angle AOC = 90^\circ$ となるとき, 点 C の座標は $(\square, \square, \square)$ である。
(共立薬科大)

□(6) 3点 $A(1, -2, 3)$, $B(3, 1, 3)$, $C(5, 9, 5)$ で決まる平面を S とする。点 $D(0, -1, u)$ が平面 S 上にあるとき, u の値を求めよ。
さらに, 点 $E(v, -4, w)$ を考え, 直線 AE が平面 S に対して垂直であるとき, v, w の値を求めよ。
(山口東京理科大)

□(7) 点 $(-4, -\frac{1}{2}, 5)$ を通り, ベクトル $(4, 1, -2)$ に平行な直線を l とする。点 $P(2, 3, 3)$ に最も近い直線 l 上の点を Q とするとき, 線分 PQ の長さは \square であり, 点 Q の座標は \square である。
(福岡大)

□(8) 座標空間の2点 $A(4, 5, 2)$, $B(10, 15, 4)$ を通る直線が xz 平面および xy 平面と交わる点をそれぞれ P, Q とする。線分 PQ の長さを求めよ。
(防衛医科大)

9 空間内に3点 $O(0, 0, 0)$, $A(3, -2, 6)$, $B(-1, 2, -2)$ がある。次の問いに答えよ。(図書館情報大)

□(1) \vec{OA} , \vec{OB} と同じ向きの単位ベクトル \vec{e}_A , \vec{e}_B をそれぞれ求めよ。

□(2) 平面 OAB 上で $\angle AOB$ の二等分線と直線 AB の交点を P とするとき、 \vec{OP} と同じ向きの単位ベクトル \vec{e}_P を求めよ。

□(3) 点 O から直線 AB に下ろした垂線の足を H とするとき、 \vec{OH} と同じ向きの単位ベクトル \vec{e}_H を求めよ。

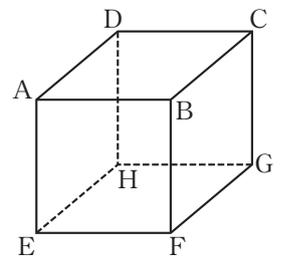
10 四面体 $OPQR$ について、 $\vec{a} = \vec{OP}$, $\vec{b} = \vec{QR}$, $\vec{c} = \vec{OQ}$, $\vec{d} = \vec{PR}$ とするとき、次の問いに答えよ。(群馬大)

□(1) \vec{d} を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて表せ。

□(2) 辺 PQ を $2:1$ に内分する点を A , 辺 OR を $3:2$ に内分する点を B とするとき、 \vec{AB} を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて表せ。

□(3) $|\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 = |\vec{c}|^2 + |\vec{d}|^2$ が成立するとき、 $\vec{b} + \vec{c}$ と $\vec{a} - \vec{c}$ は垂直であることを示せ。

11 右の図の立方体 $ABCD-EFGH$ の1辺の長さは1である。線分 AH と線分 ED の交点を P , 線分 DF の中点を R , 線分 AC を $3:1$ に内分する点を Q , 辺 GC を $2:1$ に内分する点を S とする。次の問いに答えよ。(愛媛大)



□(1) \vec{PQ} と \vec{RS} を $\vec{a} = \vec{EF}$, $\vec{b} = \vec{EH}$, $\vec{c} = \vec{EA}$ を用いて表せ。

□(2) 4点 C, D, H, G を含む平面上の点 T は $\vec{FT} \perp \vec{PQ}$, $\vec{FT} \perp \vec{RS}$ を満たすとする。このとき、線分 HT の長さを求めよ。

12 4点 $O(0, 0, 0)$, $A(1, 0, 0)$, $B(1, 2, 0)$, $C(2, 1, 3)$ がある。次の空欄に当てはまる数を答えよ。(慶應義塾大)

ベクトル $\vec{u} = (u_1, u_2, 1)$ がベクトル \vec{AB} , \vec{AC} に垂直なとき、 $u_1 = \square$, $u_2 = \square$ である。

ベクトル \vec{v} をベクトル \vec{u} と同じ向きの単位ベクトルとすると、 $\vec{v} = \square \vec{u}$ である。

点 O から $\triangle ABC$ に引いた垂線 OH の長さを求めると、 $(OH \text{ の長さ}) = \square$ である。

□

入試問題研究 (基本編 2)

1 平面上の3点 O, A, B が $|\vec{OA} + \vec{OB}| = |2\vec{OA} + \vec{OB}| = |\vec{OA}| = 1$ を満たしているとする。

□(1) \vec{OA} と \vec{OB} の内積は $\vec{OA} \cdot \vec{OB} = -\frac{\text{ア}}{\text{イ}}$ である。また、 $|\vec{OB}| = \sqrt{\text{ウ}}$ である。

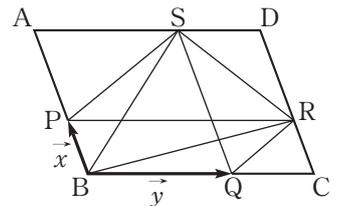
したがって、 $|\vec{AB}| = \sqrt{\text{エ}}$ となる。

□(2) 三角形 OAB の面積は $\frac{\sqrt{\text{オ}}}{\text{カ}}$ である。また、O から辺 AB に下ろした垂線の長さは $\frac{\sqrt{\text{キク}}}{\text{ケコ}}$ である。

□(3) 点 P が平面上を $|\vec{OP}| = |\vec{OB}|$ を満たしながら動くとき、三角形 PAB の面積 S の最大値を求めよう。

P から AB に下ろした垂線の長さの最大値は $\sqrt{\text{サ}} \left(1 + \frac{\sqrt{\text{シ}}}{\text{スセ}} \right)$ であるから、S の最大値は、
 $\frac{\sqrt{\text{ソ}} + 2\sqrt{\text{タチ}}}{\text{ツ}}$ である。

2 平行四辺形 ABCD において、辺 AB を $a:1$ に内分する点を P、辺 BC を $b:1$ に内分する点を Q とする。辺 CD 上の点 R および辺 DA 上の点 S をそれぞれ $PR \parallel BC$, $SQ \parallel AB$ となるようにとり、 $\vec{x} = \vec{BP}$, $\vec{y} = \vec{BQ}$ とおく。



□(1) 五角形 PBQRS の辺 RQ, SP および対角線 SB, RB が表すベクトルは \vec{x} , \vec{y} を用いて、

$$\vec{RQ} = -\vec{x} - \frac{\text{ア}}{\text{イ}} \vec{y}, \quad \vec{SP} = \text{ウエ} \vec{x} - \vec{y}$$

$$\vec{SB} = -(\text{オ} + \text{カ}) \vec{x} - \vec{y}, \quad \vec{RB} = -\vec{x} - \left(\frac{\text{ク}}{\text{ケ}} + \text{キ} \right) \vec{y}$$

となる。

□(2) $\vec{SP} \cdot \vec{x} = \vec{x} \cdot \vec{y} = \vec{y} \cdot \vec{RQ}$ が成り立つとする。

このとき、 $\vec{x} \cdot \vec{y} = -\frac{\text{コ}}{\text{サ}} |\vec{x}|^2 = -\frac{1}{\text{シス}} |\vec{y}|^2$ である。

□(3) $RQ \parallel SB$ および $SP \parallel RB$ が成り立つとする。

このとき、 $a = \frac{\text{セソ} + \sqrt{\text{タ}}}{\text{チ}}$, $b = \frac{\text{ツ}}{\text{ト}} + \sqrt{\frac{\text{テ}}{\text{ト}}}$ である。

□(4) (2)と(3)の条件が同時に成り立つとき、 $\frac{|\vec{y}|}{|\vec{x}|} = \text{ナ}$ であるから、 $\cos \angle PBQ = \frac{\text{ニ} - \sqrt{\text{ヌ}}}{\text{ネ}}$ を得る。

3 OA = 5, OC = 4, $\angle AOC = \theta$ である平行四辺形 OABC において, 線分 OA を 3 : 2 に内分する点を D とする。また, 点 A を通り直線 BD に垂直な直線と直線 OC の交点を E とする。ただし, $0 < \theta < \pi$ とする。以下, $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$ とおき, 実数 t を用いて $\overrightarrow{OE} = t\vec{c}$ と表す。

□(1) t を $\cos \theta$ を用いて表そう。

$$\overrightarrow{AE} = t\vec{c} - \vec{a}, \quad \overrightarrow{DB} = \frac{\text{ア}}{\text{イ}}\vec{a} + \vec{c}, \quad \vec{a} \cdot \vec{c} = \text{ウエ} \cos \theta$$

となるので, $\overrightarrow{AE} \cdot \overrightarrow{DB} = \text{オ}$ により,

$$t = \frac{\text{カ}}{\text{ク}} \frac{(\text{キ} \cos \theta + 1)}{(\cos \theta + \text{ケ})} \quad \dots \text{①}$$

となる。

□(2) 点 E は線分 OC 上にあるとする。 θ のとり得る値の範囲を求めよう。ただし, 線分 OC は両端の点 O, C を含むものとする。以下, $r = \cos \theta$ とおく。

点 E が線分 OC 上にあることから, $0 \leq t \leq 1$ である。

$-1 < r < 1$ なので, ①の右辺の $\cos \theta$ を r に置き換えた分母 $\text{ク}(r + \text{ケ})$ は正である。

したがって, 条件 $0 \leq t \leq 1$ は,

$$0 \leq \text{カ}(\text{キ}r + 1) \leq \text{ク}(r + \text{ケ}) \quad \dots \text{②}$$

となる。

r についての不等式②を解くことにより, θ のとり得る値の範囲は,

$$\frac{\pi}{\text{コ}} \leq \theta \leq \frac{\text{サ}}{\text{シ}} \pi$$

であることがわかる。

□(3) $\cos \theta = -\frac{1}{8}$ とする。直線 AE と直線 BD の交点を F とし, 三角形 BEF の面積を求めよう。

①により, $t = \frac{\text{ス}}{\text{セ}}$ となり,

$$\overrightarrow{OF} = \frac{\text{ソ}}{\text{タ}}\vec{a} + \frac{\text{チ}}{\text{ツ}}\vec{c}$$

となる。

したがって, 点 F は線分 AE を 1 : テ に内分する。

このことと, 平行四辺形 OABC の面積は $\frac{\text{トナ}}{\text{ヌ}} \sqrt{\text{ニ}}$ であることから,

三角形 BEF の面積は $\frac{\text{ネ}}{\text{ハ}} \sqrt{\text{ノ}}$ である。

4 正四面体 OABC において $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OC} = \vec{c}$ とする。辺 OA を 4 : 3 に内分する点を P, 辺 BC を 5 : 3 に内分する点を Q とする。

そのとき, $\vec{PQ} = \frac{\text{アイ}}{\text{ウ}} \vec{a} + \frac{\text{エ}}{\text{オ}} \vec{b} + \frac{\text{カ}}{\text{キ}} \vec{c}$ である。

線分 PQ の中点を R とし, 直線 AR が $\triangle OBC$ の定める平面と交わる点を S とする。

そのとき $AR : AS = \text{ク} : \text{ケ}$ である。

また, $\cos \angle AOQ = \frac{\text{コ}}{\text{サ}}$ である。

□

5 四面体 OABC において, 辺 OA の中点を P, 辺 BC の中点を Q, 辺 OB の中点を S, 辺 CA の中点を T, 辺 OC の中点を V, 辺 AB の中点を W とする。

□(1) $\vec{PQ} = -\frac{\text{ア}}{\text{イ}} \vec{OA} + \frac{\text{ウ}}{\text{エ}} \vec{OB} + \frac{\text{オ}}{\text{カ}} \vec{OC}$ である。

□(2) $\vec{PQ} \cdot \vec{ST} = -\frac{\text{キ}}{\text{ク}} AB^2 + \frac{\text{ケ}}{\text{コ}} OC^2$ である。

□(3) $AB = 5$, $BC = 7$, $CA = 8$, $\vec{PQ} \cdot \vec{ST} = 6$, $\vec{ST} \cdot \vec{VW} = 8$, $\vec{VW} \cdot \vec{PQ} = 9$ のとき, $OC = \text{サ}$,
 $\cos \angle AOB = \frac{\text{シス}}{\text{セソ}}$ である。

6 四面体の四つの頂点を, O, L, M, N とする。線分 OL を 2 : 1 に内分する点を P とし, 線分 MN の中点を Q とする。a と b を 1 より小さい正の実数とする。線分 ON を a : (1 - a) に内分する点を R とし, 線分 LM を b : (1 - b) に内分する点を S とする。 $\vec{l} = \vec{OL}$, $\vec{m} = \vec{OM}$, $\vec{n} = \vec{ON}$ とおく。

□(1) $\vec{RS} = (\text{ア} - \text{イ}) \vec{l} + \text{ウ} \vec{m} - \text{エ} \vec{n}$

$\vec{RP} = \frac{\text{オ}}{\text{カ}} \vec{l} - \text{キ} \vec{n}$

$\vec{RQ} = \frac{\text{ク}}{\text{ケ}} \vec{m} + \left(\frac{\text{コ}}{\text{サ}} - \text{シ} \right) \vec{n}$

が成立する。

□(2) 以下 $\vec{l} = (1, 0, 0)$, $\vec{m} = (0, 1, 0)$, $\vec{n} = (0, 0, 1)$ の場合を考える。

点 S が 3 点 P, Q, R の定める平面上にあるとする。このとき, \vec{RS} は実数 x と y を用いて,
 $\vec{RS} = x \vec{RP} + y \vec{RQ}$ と表せる。

これより $x = \frac{\text{ス}}{\text{セ}} (1 - b)$, $y = \text{ソ} b$ となり, a と b は $\text{タチ} + \text{ツ} - \text{テト} = 0$ を満たすことがわかる。

さらに, \vec{RP} と \vec{RQ} が垂直になるのは $a = \frac{\text{ナ}}{\text{ニ}}$, $b = \frac{\text{ヌ}}{\text{ネ}}$ のときであり, このとき, \vec{PQ} と \vec{RS} の

内積は $\vec{PQ} \cdot \vec{RS} = \frac{\text{ノハヒ}}{\text{フヘ}}$ となる。

7 空間に異なる4点O, A, B, Cを, $\vec{OA} \perp \vec{OB}$, $\vec{OB} \perp \vec{OC}$, $\vec{OC} \perp \vec{OA}$ となるようにとり, $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OC} = \vec{c}$ とおく。さらに, 3点D, E, Fを, $\vec{OD} = \vec{a} + \vec{b}$, $\vec{OE} = \vec{b} + \vec{c}$, $\vec{OF} = \vec{a} + \vec{c}$ となるようにとり, 線分BDの中点をL, 線分CEの中点をMとし, 線分ADを3:1に内分する点をNとする。

□(1) \vec{OM} , \vec{ON} は, \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて,

$$\vec{OM} = \frac{1}{\boxed{ア}} \vec{b} + \vec{c}$$

$$\vec{ON} = \vec{a} + \frac{\boxed{イ}}{\boxed{ウ}} \vec{b}$$

と表される。

□(2) 2直線FL, MNが交わることを確かめよう。

$0 < s < 1$ とし, 線分FLを $s : (1-s)$ に内分する点をPとする。 \vec{OP} は, s と \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて,

$$\vec{OP} = \left(\boxed{エ} - \frac{s}{\boxed{オ}} \right) \vec{a} + s \vec{b} + (\boxed{カ} - s) \vec{c}$$

と表される。

$s = \frac{\boxed{キ}}{\boxed{ク}}$ のとき, $\vec{MP} = \frac{\boxed{ケ}}{\boxed{コ}} \vec{MN}$ となるので, M, N, P は一直線上にある。

よって, 2直線FL, MNは交わることがわかる。

□(3) 2直線FL, MNの交点をGとする。 \vec{OG} , \vec{GF} は, \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて,

$$\vec{OG} = \frac{\boxed{サ}}{\boxed{シ}} (\boxed{ス} \vec{a} + \boxed{セ} \vec{b} + \vec{c})$$

$$\vec{GF} = \frac{\boxed{サ}}{\boxed{シ}} (\vec{a} - \boxed{セ} \vec{b} + \boxed{ソ} \vec{c})$$

と表される。

$|\vec{a}| = \sqrt{5}$, $|\vec{b}| = 4$, $|\vec{c}| = \sqrt{3}$ とする。

このとき, $|\vec{GF}| = \boxed{タ}$, $|\vec{GM}| = 2$ となる。

次に, 直線OC上に点Hをとり, 実数 t を用いて, $\vec{OH} = t \vec{c}$ と表す。

$\vec{GF} \cdot \vec{GH}$, $\vec{GM} \cdot \vec{GH}$ は, t を用いて,

$$\vec{GF} \cdot \vec{GH} = \boxed{チ} t + \frac{\boxed{ツテ}}{\boxed{ト}} \quad \dots \textcircled{1}$$

$$\vec{GM} \cdot \vec{GH} = 2t + \frac{10}{3} \quad \dots \textcircled{2}$$

と表される。

さらに, $\angle FGH = \angle MGH$ とする。このときの t の値を求めよう。

$|\vec{GF}| = \boxed{タ}$, $|\vec{GM}| = 2$ と $\angle FGH = \angle MGH$ であることから,

$$\vec{GF} \cdot \vec{GH} = \frac{\boxed{ナ}}{\boxed{ニ}} \vec{GM} \cdot \vec{GH} \quad \dots \textcircled{3}$$

が成り立つ。

①, ②, ③から, $t = \frac{\boxed{ヌ}}{\boxed{ネ}}$ である。

入試問題研究 (応用編)

- 1 同一直線上にない3点をO, A, Bとする。Aを通り直線OBに垂直な直線上に点Cをとり、Bを通り直線OAに垂直な直線上に点Dをとる。このとき、ベクトルの内積に関して、次の等式が成り立つことを示せ。

(茨城大)

- (1) $\vec{OA} \cdot \vec{OB} = \vec{OA} \cdot \vec{OD}$
- (2) $\vec{OC} \cdot \vec{OD} = \vec{OA} \cdot \vec{OB} + \vec{AC} \cdot \vec{BD}$

- 2 $\triangle ABC$ の3辺の長さをそれぞれ $AB = \sqrt{7}$, $BC = \sqrt{6}$, $CA = \sqrt{5}$ とし、外接円の中心(外心)をOとする。次の空欄に当てはまる数を答えよ。

(神戸薬科大)

- (1) \vec{AB} と \vec{AC} の内積は である。
- (2) \vec{AB} と $2\vec{AO}$ の内積は である。
- (3) \vec{AB} と \vec{AC} を使って \vec{AO} を表すと、 $\vec{AO} = \text{} \vec{AB} + \text{} \vec{AC}$ である。

- 3 平面上の2つのベクトル \vec{a} , \vec{b} について、 $|\vec{a}| = 2$, $|\vec{b}| = 3$, $\vec{a} \cdot \vec{b} = 4$ とする。次の空欄に当てはまる数を答えよ。

(会津大)

- (1) \vec{a} と同じ向き単位ベクトル \vec{p} は、 $\vec{p} = \text{} \vec{a} + \text{} \vec{b}$ と表される。
- (2) \vec{a} に垂直で、 \vec{b} との内積が正となる単位ベクトル \vec{q} は、 $\vec{q} = \text{} \vec{a} + \text{} \vec{b}$ と表される。
- (3) 単位ベクトル \vec{r} と \vec{b} のなす角を \vec{a} が2等分するとき、 $\vec{r} = \text{} \vec{a} + \text{} \vec{b}$ と表される。

- 4 四辺形OABCにおいて $OA = 1$, $AB = BC = 2$, $OC = 3$, $\angle COA = 90^\circ$ であるとする。次の問いに答えよ。

(広島工業大)

- (1) ベクトル $\vec{AB} + \vec{BC}$ の大きさ、および \vec{AB} と \vec{BC} の内積を求めよ。
- (2) \vec{AB} と \vec{BC} のなす角を θ とするとき、 $\cos \theta$ と $\sin \theta$ の値を求めよ。
- (3) 四辺形OABCの面積を求めよ。

5 $\triangle ABC$ において、 $|\overrightarrow{AB}|=4$ 、 $|\overrightarrow{AC}|=5$ 、 $|\overrightarrow{BC}|=6$ である。辺 AC 上の点 D は $BD \perp AC$ を満たし、辺 AB 上の点 E は $CE \perp AB$ を満たす。 CE と BD の交点を H とする。次の問いに答えよ。 (一橋大)

(1) $\overrightarrow{AD} = r \overrightarrow{AC}$ となる実数 r を求めよ。

(2) $\overrightarrow{AH} = s \overrightarrow{AB} + t \overrightarrow{AC}$ となる実数 s, t を求めよ。

6 $AB=3$ 、 $BC=2$ 、 $CA=4$ である $\triangle ABC$ の内心を P とし、直線 AP と辺 BC の交点を D とする。 $\triangle ABC$ の内接円と辺 BC との接点を Q とし、 Q を通り直線 AP に垂直な直線と辺 AC の交点を R とする。次の問いに答えよ。 (横浜国立大)

(1) 内積 $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC}$ を求めよ。

(2) \overrightarrow{AD} 、 \overrightarrow{AP} 、 \overrightarrow{AQ} をそれぞれ \overrightarrow{AB} 、 \overrightarrow{AC} を用いて表せ。

(3) 比 $AR:RC$ を求めよ。

7 $\angle BAC$ が鋭角である $\triangle ABC$ において、線分 AB の中点を D 、線分 BC の中点を E 、線分 AC を $s:(1-s)$ に内分する点を F とする。ただし、 $0 < s < 1$ とする。 $\overrightarrow{AB} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{AC} = \vec{b}$ とおくと、次の問いに答えよ。 (大阪教育大)

(1) 線分 DF と線分 AE が直交するとき、 s を \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。

(2) 線分 DF と線分 AE の交点 P が線分 AE を $3:2$ に内分するとき、 s の値を求めよ。

(3) (2) のとき、 $4\overrightarrow{PA} + 3\overrightarrow{PB} + 3\overrightarrow{PC} = \vec{0}$ となることを示せ。

8 $\triangle ABC$ の内部の点 P が $3\overrightarrow{PA} + 4\overrightarrow{PB} + 5\overrightarrow{PC} = \vec{0}$ を満たしている。 AP の延長と辺 BC との交点 D は、 BC を $t:(1-t)$ に内分する。ただし、 $0 < t < 1$ とする。次の問いに答えよ。 (豊橋技術科学大)

(1) \overrightarrow{PB} 、 \overrightarrow{PC} および t を用いて、 \overrightarrow{PD} を表せ。

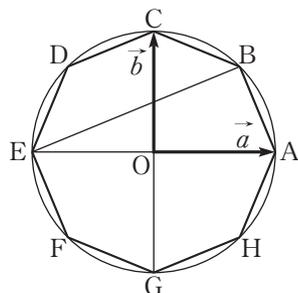
(2) 点 D が AP の延長上にあることを考慮し、 t の値を求めよ。

(3) $\triangle PAB$ の面積と $\triangle ABC$ の面積との比を求めよ。

9 Oを原点として、 $\overrightarrow{OA}=(2, 1)$, $\overrightarrow{OB}=(1, 2)$ とする。 $\overrightarrow{OP}=s\overrightarrow{OA}+t\overrightarrow{OB}$ とする。実数 s, t が次の条件を満たすとき、点 $P(x, y)$ の存在範囲を図示せよ。 (大阪歯科大)

- (1) $0 \leq s \leq 2, t = 0$
- (2) $0 \leq s \leq 2, 1 \leq t \leq 2$
- (3) $s \geq 0, t \geq 0, s + 2t \leq 2$

10 半径1の円Oに内接する正八角形 ABCDEFGHがある。点Bと点Eを線分で結び、 $0 < k < 1$ を満たす k に対して、BEを $(1-k):k$ に内分する点をPとする。また、 $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$, $\vec{b} = \overrightarrow{OC}$ とする。次の問いに答えよ。 (日本大)



- (1) \overrightarrow{GP} を \vec{a}, \vec{b} および k を用いて表せ。
- (2) k を $0 < k < 1$ の範囲で動かすとき、 $|\overrightarrow{GP}|$ が最小となるときの k の値を求めよ。
- (3) 点Gと点Pを線分で結ぶとき、GPが三角形BEFの重心を通るとき k の値を求めよ。

11 平面上の異なる3点O, A, Bは同一直線上にないものとする。この平面上の点Pが $2|\overrightarrow{OP}|^2 - \overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OP} + 2\overrightarrow{OB} \cdot \overrightarrow{OP} - \overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = 0$ を満たすとき、次の問いに答えよ。 (岡山大)

- (1) Pの軌跡が円となることを示せ。
- (2) (1)の円の中心をCとすると、 \overrightarrow{OC} を \overrightarrow{OA} と \overrightarrow{OB} で表せ。
- (3) Oとの距離が最小となる(1)の円周上の点を P_0 とする。A, Bが条件 $|\overrightarrow{OA}|^2 + 5\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} + 4|\overrightarrow{OB}|^2 = 0$ を満たすとき、 $\overrightarrow{OP_0} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$ となる s, t の値を求めよ。

12 定数 k を実数とする。座標平面上に4つの定点 $A(\vec{a}), B(\vec{b}), C(\vec{c}), D(\vec{d})$ がある。 $|\vec{a}|=2, |\vec{b}|=1, |\vec{a}-\vec{b}|=\sqrt{3}$ とし、 $\vec{d}=4\vec{b}$ とする。このとき、Cを中心とする円K上の任意の点を $P(\vec{p})$ とし、Kはベクトル方程式

$$(\vec{p} - k\vec{a} - \vec{b}) \cdot (\vec{p} + 3\vec{b}) = 0$$

で表されるとする。また、Dを通り、 \vec{a} に平行な直線を l とする。次の問いに答えよ。 (京都府立大)

- (1) \vec{c} を \vec{a}, \vec{b}, k を用いて表せ。
- (2) Kの半径が $\sqrt{3}$ となる k の値を求めよ。
- (3) Cから l に下ろした垂線の足をHとする。Hの位置ベクトル \vec{h} を \vec{a}, \vec{b}, k を用いて表せ。
- (4) l が、Kと共有点をもつとすると、 k のとり得る値の範囲を求めよ。

13 空間内の3点 $O(0, 0, 0)$, $A(-2, 1, 1)$, $B(-1, -1, 2)$ について、次の問いに答えよ。(日本女子大)

□(1) ベクトル \vec{OA} , \vec{OB} のなす角を求めよ。

□(2) 3点 O , A , B を通る平面上の点 $P(x, y, z)$ で $\angle AOP = \angle BOP$ を満たし、 \vec{OP} の長さが1となるものを求めよ。

14 四面体 $OABC$ において、

$$OA = OB = OC = 3, \quad AB = BC = CA = \sqrt{6}$$

である。また、点 P は辺 AB を $x : (1-x)$ に内分し、点 Q は辺 OC を $y : (1-y)$ に内分する ($0 < x < 1$, $0 < y < 1$)。 $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OC} = \vec{c}$ として、次の問いに答えよ。(新潟大)

□(1) 内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ を求めよ。

□(2) \vec{PQ} を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} , x , y で表せ。

□(3) 2点 P , Q の間の距離 PQ の最小値と、そのときの x , y の値を求めよ。

15 右の図の三角柱 $OAB-CDE$ において、 $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OC} = \vec{c}$ とおき、

$$|\vec{a}| = \sqrt{3}, \quad |\vec{b}| = \sqrt{5}, \quad |\vec{c}| = 4$$

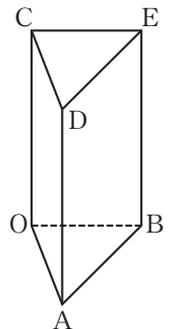
$$\vec{a} \cdot \vec{b} = 1, \quad \vec{a} \cdot \vec{c} = \vec{b} \cdot \vec{c} = 0$$

とする。辺 AD , BE 上にそれぞれ点 P , Q をとり、 $AP = s$, $BQ = t$ とおく。次の問いに答えよ。(徳島大)

□(1) \vec{OP} , \vec{PQ} を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} および s , t を用いて表せ。

□(2) $OP \perp PQ$ となるとき、 t を s を用いて表せ。

□(3) $\triangle OPQ$ が $OP = PQ$ の直角二等辺三角形となるように、 s , t の値を定めよ。



16 原点 O , 点 $A\left(\frac{1}{2}, \frac{\sqrt{3}}{2}, 0\right)$, $B\left(-\frac{1}{2}, \frac{\sqrt{3}}{2}, 0\right)$, C を頂点とする1辺の長さが1の正四面体において、辺 AB の中点を M とする。ただし、点 C の z 座標は正とする。次の問いに答えよ。(成城大)

□(1) $\angle COM = \theta$ とするとき、 $\cos \theta$ を求めよ。

□(2) 点 C の座標を求めよ。

□(3) この正四面体に外接する球の中心の座標と半径を求めよ。

17 xyz 空間にある球面 S と xy 平面との交わりが円 $(x-2)^2 + (y-1)^2 = 32$ であり、点 $A(6, 3, -2)$ が球面 S 上にある。次の問いに答えよ。 (佛科大)

- (1) 球 S の方程式を求めよ。
- (2) 点 $B(-6, 1, 8)$ から球 S の中心までの距離を求めよ。
- (3) 点 B から球面 S へ引いた接線の接点が描く円の半径を求めよ。
- (4) 上の(3)の円の中心の座標を求めよ。

18 原点を O とし、3点 $A(2, 0, 0)$, $B(0, 4, 0)$, $C(0, 0, 3)$ をとる。 $\triangle ABC$ の重心を G とし、原点 O から3点 A, B, C を含む平面に下ろした垂線の足を H とする。次の問いに答えよ。 (宮城大)

- (1) G の座標を求めよ。
- (2) H の座標を求めよ。
- (3) $\triangle ABC$ の面積を求めよ。

19 空間内に4点 A, B, C, D がある。次の問いに答えよ。 (武蔵工業大)

- (1) $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} = 6$, $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{BC} = 1$, $\overrightarrow{AC} \cdot \overrightarrow{BC} = 3$ のとき、 $\triangle ABC$ の面積を求めよ。
- (2) (1)の条件が成り立ち、さらに $\overrightarrow{AD} \cdot \overrightarrow{AB} = \overrightarrow{AD} \cdot \overrightarrow{AC} = 0$, $\overrightarrow{BD} \cdot \overrightarrow{CD} = 10$ も成り立つとき、四面体 $ABCD$ の体積を求めよ。

20 空間の4点 $A(1, 2, 3)$, $B(2, 3, 1)$, $C(3, 1, 2)$, $D(1, 1, 1)$ に対し、2点 A, B を通る直線を l , 2点 C, D を通る直線を m とする。次の問いに答えよ。 (旭川医科大)

- (1) l, m のベクトル方程式を求めよ。
- (2) l と m は交わらないことを示せ。
- (3) l と m のどちらにも直交する直線を n とするとき、 l と n の交点 E の座標および m と n の交点 F の座標を求めよ。

21 点 A(1, 2, 4) を通り、ベクトル $\vec{n} = (-3, 1, 2)$ に垂直な平面を α とする。平面 α に関して同じ側に 2 点 P(-2, 1, 7), Q(1, 3, 7) がある。次の問いに答えよ。 (鳥取大)

(1) 平面 α に関して点 P と対称な点 R の座標を求めよ。

(2) 平面 α 上の点で、PS + QS を最小にする点 S の座標とそのときの最小値を求めよ。

22 空間に、同一直線上にない 3 点 O, A, B と 1 点 P がある。O, A, B を通る平面を α とし、点 P は α 上にはないとする。 $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OP} = \vec{p}$ とおき、 $|\vec{a}| = \sqrt{2}$, $|\vec{b}| = \sqrt{2}$, $\vec{a} \cdot \vec{b} = -1$, $\vec{p} \cdot \vec{a} = 2$, $\vec{p} \cdot \vec{b} = -2$ とする。次の問いに答えよ。 (千葉大)

(1) $\vec{p} - s\vec{a} - t\vec{b}$ が平面 α に垂直になるように実数 s, t の値を定めよ。

(2) 平面 α に関して点 P と対称な点を Q とするとき、ベクトル \vec{OQ} を $\vec{a}, \vec{b}, \vec{p}$ を用いて表せ。

(3) $\triangle OPQ$ の面積が $\frac{2\sqrt{2}}{3}$ のとき、 \vec{p} の大きさ $|\vec{p}|$ を求めよ。

23 座標空間内に、中心軸がベクトル $\vec{l} = (-2, -4, 5)$ に平行な円柱がある。また、その側面上に 3 点 $O(0, 0, 0)$, $A(0, 0, \frac{9}{2})$, $B(-2\sqrt{5}, 0, \sqrt{5})$ があるとす。次の問いに答えよ。 (金沢大)

(1) O を含み \vec{l} に垂直な平面に A, B それぞれから下ろした垂線の足 A', B' の座標を求めよ。また、 $\triangle OA'B'$ は直角三角形であることを示せ。

(2) この円柱の底面の面積を求めよ。

24 座標空間内において、原点を中心とする半径 1 の球面を S とし、その上に点 N(0, 0, 1) をとる。球面 S 上の N と異なる点 P(p, q, r) に対して、直線 NP と xy 平面との交点を Q(u, v, 0) とする。このとき、次の問いに答えよ。 (愛知教育大)

(1) u, v を p, q, r で表せ。

(2) yz 平面を x 軸方向に $\frac{1}{2}$ だけ平行移動して得られる平面を T とする。点 P が球面 S と平面 T との交線上を動くとき、対応する点 Q が xy 平面上に描く軌跡の方程式を求め、それがどのような図形か述べよ。